

聖泉大学看護学部

看護キャリアアップセンター活動報告

平成 28 年度

Vol. 5

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

## まえがき

聖泉大学看護学部  
学部長 流郷 千幸

関連施設の皆様におかれましては、日々、本学の教育およびキャリアアップセンターの活動にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

聖泉大学看護学部は開設 6 年目となり、大学院看護学研究科においては第 1 期生を輩出することができました。

当センターでは、地域の医療・教育の発展と向上、保健・医療・福祉・教育現場の相互交流を目的とし、開設当初から看護研究講座、研究のサポート、共同研究を行なってきました。昨年度からは、小山センター長の力強いリーダーシップのもと、新たな事業として卒業生のサポートが始まりました。卒業生には、学部を卒業した後も聖泉大学との繋がりをもちながら、それぞれの職場で活躍を続けていただきたいと思います。

看護研究講座においては、研究初心者を対象としたキャリアアップ講座と、2014 年からは研究の基礎を修得している方を対象としたキャリアジャンプ講座を企画・運営しています。キャリアアップ講座の修了者は 121 名、ジャンプ受講者は 33 名となりました。修了生の皆様には、本講座で培った研究能力を存分に発揮しておられることと存じますが、是非、研究を継続、発展させていただきたいと思います。次なる飛躍の場として、本学大学院でさらに能力を磨き、研究の楽しさや喜びを実感していただきたいと思います。また、これから看護研究に取り組む予定のある方、関心をおもちの方には、最初の一步として、本講座を活用していただきたいと思います。

修了時アンケートでは、講座の内容、教員のサポートなど好評価をいただいています。センター長、委員会メンバーをはじめとする多くの教員の協力の賜物だと自負しております。今後も看護職の方々にとって身近なキャリアアップセンターを目指して参りますので、おおいに活用いただければ幸いです。

# 目次

まえがき

聖泉大学看護学部長 流郷千幸

I. 看護キャリアアップセンターの概要	1
1 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方	
2 センターの目的と機能	
3 設置・運営	
4 組織構成	
5 年間計画・実施	
II. キャリアアップ講座	4
1 キャリアアップ講座	
1-1 キャリアアップ講座の概要	
1-2 講義内容（シラバス・講義資料）及び担当講師紹介	
1-3 研究相談（概要）	
1-4 キャリアアップ講座アンケート結果	
2 キャリアジャンプ講座	
2-1 キャリアジャンプ講義内容（シラバス・講義資料）及び担当講師紹介	
2-2 キャリアジャンプ講座アンケート結果	
III. 卒業生研修会	34
1 卒業生研修会の講義内容及び担当講師紹介	
1-1 卒後1年目研修	
1-2 卒後2年目研修	
IV. 聖泉大学ホームページへの掲載	37
1 キャリアアップ講座の掲載記事	
2 キャリアジャンプ講座の掲載記事	

資料

◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規定	42
◆ 個人情報の使用に係る承諾について	44
◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について	45
◆ 共同研究のお誘い	46

あとがき

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長 小山敦代

# I. 看護キャリアアップセンターの概要

## 1 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方

看護キャリアアップセンター(以下センターとする)の設置主旨は、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、あるいは保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場となって、広く皆様の活動に役立てられることにある。

## 2 センターの目的と機能

センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行うことによりその機能を果たすものとする。

- (1)看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2)地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3)地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4)地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5)当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6)その他、センターの目的達成のために必要な事業

## 3 設置・運営

聖泉大学看護学部看護学科

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

ホームページ <http://www.seisen.ac.jp>

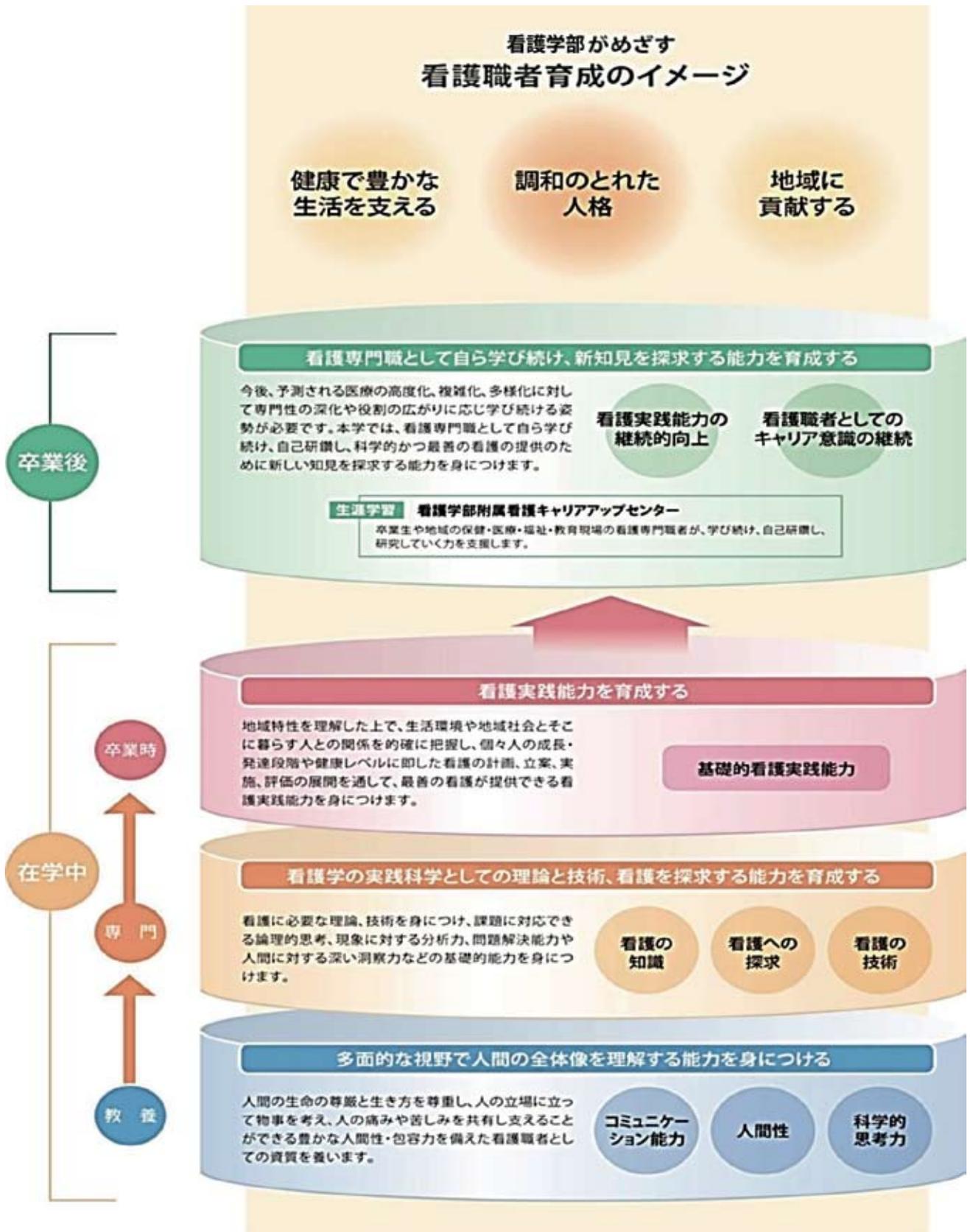


## 4 組織構成

平成 28 年度のセンターの組織構成は以下の表のとおりである。

	領 域	職 位	氏 名
センター長	基礎看護学	教 授	小 山 敦 代
副センター長	小児看護学	講 師	平 田 美 紀
委 員	成人看護学	准教授	中 川 ひろみ
委 員	在宅看護学	助 教	川 嶋 元 子
委 員	基礎看護学	助 教	千 田 美紀子
委 員	老年看護学	助 手	森 本 恵り子

◆ 構成図



聖泉大学ホームページより <http://www.seisen.ac.jp/>

## 5 年間計画・実施

	活動内容		
	キャリアアップ講座の開催 (規程第3条(1)に基づく)	キャリアアップセンターの運営 (規程第3条(6)に基づく)	研究相談活動 (規程第3条(2・3)に基づく)
2016 4月	ホームページ講座申し込みのアップ キャリアアップ講座申込受付 講師依頼(文書発行) 施設設備の確保・調整・使用申し込み 必要物品など購入手配等、準備 受講申し込みの対応:受け取りの通知 4月28日申し込み締め切り	臨時会議 新委員との顔合わせ、定例会議日の決定、活動計画について説明 定例会議(臨時会議も予定) 代表者メールの変更届け 共同研究の窓口、問い合わせ窓口などの変更	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
5月	受講者確定、受講決定通知メールおよび郵送講座開催と支出に関する回議書申請	定例会議	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
6月	①キャリアホップ講座の開催:6月27日(月)	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等、準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
7月	②キャリアステップ講座の開催:7月28日(木) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等、準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
8月	③キャリアアップ講座の開催:8月19日(金) 研究相談指導にかかるアンケート調査提出	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等、準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
9月	④キャリアサポートの開催:9月9日(金) ⑤キャリアジャンプ特別講座の開催:9月23日(金) 今年度開催講座の反省	定例会議(前日準備) 必要物品など購入手配等、準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
10月	講師謝金の支払い等予算執行に関する事後措置 キャリアアップ講座アンケートの集計とまとめ	定例会議 教授会、学科会議での報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
11月	次年度実施計画の検討・予算案の作成 卒業生研修会・懇親会の検討・予算の作成	定例会議 今年度決算及び来年度予算の概算報告書の作成	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
12月	次年度開催日の検討 卒業生研修会・懇親会のプログラム確定 案内文書の作成(卒業生1・2期生・看護部長)	定例会議 卒業生研修会・懇親会について教授会で承認を得る 報告書の作成	研究相談の対応
2017 1月	次年度実施計画の作成、講師の依頼調整 講座の案内文書の作成 卒業生研修会・懇親会の回議書決済 卒業生研修会・懇親会の案内文書の発送	定例会議 次年度準備 報告書の推敲、印刷、発送準備	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
2月	キャリアアップ講座プログラムの確定 報告書・次回講座案内文の発送準備 卒業生研修会・懇親会の出欠確認	定例会議 次年度の方針、活動計画の決定 次年度開催日、講座内容、講師、会場について教授会で承認を得る 今年度予算の執行報告	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ
3月	次回講座案内の発送案内の発送 次年度ホームページの更新 講座会場などの使用申請 ⑥卒業生研修会・懇親会開催:3月23日(木) 卒業生研修会アンケートの集計とまとめ	定例会議 必要物品などの購入手配等、準備 報告書の完成・発送 今年度総括と決算 新委員との顔合わせ	研究相談の対応 専門教員への取次ぎ

## II. キャリアアップ講座（看護研究）

### 1 キャリアアップ講座

#### 1-1 キャリアアップ講座の概要

##### ○キャリアアップ講座の目標

キャリアアップ講座が、地域の保健・医療・福祉・教育関係者の看護研究実践力の育成に寄与し、  
 各々の相互交流の場となること。また、キャリアアップ講座をきっかけに、看護キャリアアップセ  
 ンターの存在が地域に認知、定着され、さらなる地域連携や貢献へ展開できるようにしていくこと。

##### ○講座の到達目標

- ①看護研究を実践するための基礎的な知識や技術を身につけることができる。
- ②研究を進める上での疑問点を明確にし、それを解決するための方法がわかる。
- ③地域の保健・医療・福祉・教育関係者と相互交流することで、  
 看護研究へのモチベーションを向上することができる。

##### ○開催日：キャリアアップ講座

平成 28（2016）年 6 月 27 日（月）  
 7 月 28 日（木）  
 8 月 19 日（金）  
 9 月 9 日（金）

##### キャリアジャンプ講座

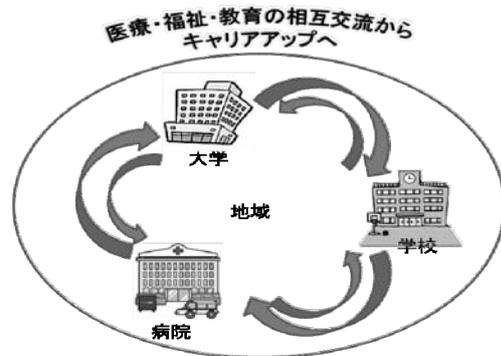
平成 28（2016）年 9 月 23 日（金）

##### ○場 所：聖泉大学学内

##### ○対 象：主に滋賀県下の保健・医療・福祉・教育機関に在職する者

##### ○プログラム：キャリアアップ講座（シラバス p. 5-10 参照）

##### キャリアジャンプ講座（シラバス p. 29 参照）



キャリアホップ(第1回)	キャリアステップ(第2回)	キャリアアップ(第3回)	個別研究サポート(第4回)	キャリアジャンプ(特別講座)
6月27日(月)	7月28日(木)	8月19日(金)	9月9日(金)	9月23日(金)
<研究の方法と進め方> 講師：原田小夜	<量的研究> <質問紙調査の方法> 講師：加納亜紀	<質的研究> <面接調査の方法> 講師：西垣里志	<個別研究相談> 担当：看護学部教員	<統計解析の基礎> 講師：種本香
<文献検索の方法> <文献クリティーク> 講師：平田美紀	<Excelを活用した データ処理> 講師：加納亜紀	<分析方法について> 講師：西垣里志		<統計解析の演習> 講師：種本香
<研究計画書の書き方> <研究倫理について> 講師：安田千寿	<基礎統計について> 講師：加納亜紀	<学会発表の方法> 口演・示説 講師：中島真由美		<SPSSを学ぼう> 講師：種本香
参加者37名(院生2名)	参加者37名(院生6名)	参加者37名(院生5名)	参加者29名	参加者10名(院生6名)

※講座参加者には、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容について、文章を用いて説明し使用の承諾を得た。（資料 p. 44 参照）

## 1-2 講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

講義テーマ	研究の方法と進め方	担当	原田 小夜
日時	平成 28 年 6 月 29 日（月） 10：00～11：30	場所	地域・在宅・精神看護学実習室

### 1) 講義の概要

研究方法論について学ぶ。研究デザイン，研究プロセス，データの収集方法等について，さらに，研究計画書の書き方，文献レビュー，論文クリティークの必要性と方法について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究の問いによって手法が違うことを理解する
- ②研究のステップを理解する
- ③文献検索の方法を理解する

### 3) 講義内容

#### 1. 研究とは

- 1) 研究定義と目的
- 2) 研究と問題解決型アプローチの違い
- 3) 研究動機，研究プロセス
- 4) 量的研究，質的研究
- 5) 研究課題（リサーチクエッション）の見つけ方，絞り込み
- 6) 概念枠組みの設定
- 7) 変数と仮説の設定
- 8) 自分の研究を進めるためには
- 9) 文献を見る

### 引用文献

- 早川和生編：JJN SPECIAL 看護研究の進め方，論文の書き方 第2版，医学書院，2012.  
佐藤淑子，和田佳代子編：JJN SPECIAL Web 検索・文献検索入門，医学書院，2013.  
西條剛央：JJN SPECIAL 看護研究で迷わないための超入門講座，医学書院，2009.  
黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step，医学書院，2012.  
南裕子編：看護における研究，日本看護協会出版会，2013.

### 【講師】原田 小夜（地域看護学）

専門は地域看護学で『地域ケアシステムや多職種チームに関する研究』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	文献検索の方法 文献クリティーク	担当	平田 美紀
日時	平成 28 年 6 月 27 日 (月) 12 : 30~14 : 00	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

研究論文から研究方法の種類・手順・内容を確認後、クリティーク「評価、検討、判断」の手順を学び、先行研究レビューの目的（意義）と方法について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①研究論文から研究の方法の種類・手順・内容について理解する
- ②文献クリティークの方法について理解する
- ③演習を行うことにより、文献クリティークができる

### 3) 講義内容

#### 1. 文献クリティークの手順

- 1) 研究論文の構成について
- 2) 当該研究の決定方法
- 3) 文献のクリティーク
  - ①何を明らかにしようとしたものか
  - ②研究対象とは
  - ③研究方法は
  - ④研究デザインについて
  - ⑤対象者の絞り込み
  - ⑥研究分析の方法につて
  - ⑦結果の読み方
  - ⑧考察の検討
  - ⑨結論の検討
  - ⑩まとめの検討

### 引用文献

数間恵子ほか：看護研究のすすめ方よみ方つかい方，日本看護協会出版，1997。  
石井秀宗：統計分析のここが知りたい，文光堂，2005。

### 【講師】平田 美紀（小児看護学）

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児に付き添う母親への支援』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	研究計画書の書き方 研究倫理について	担当	安田 千寿
日時	平成 28 年 6 月 27 日 (月) 14 : 10 ~ 15 : 10	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

研究計画書の作成について、研究計画書の項目に沿った例題を用いながら学習する。また、研究計画を進めていくにあたり、必要となる倫理的配慮について学習していく。

### 2) 講義の到達目標

- ① 研究計画書の作成方法を理解する
- ② 研究における倫理的配慮を理解する

### 3) 講義内容

1. 研究計画書を作成する
  - 1) 研究テーマ
  - 2) 研究動機と目的
  - 3) 研究の背景・意義
  - 4) 研究の方法（量的研究・質的研究）
  - 5) 役割分担
2. 研究倫理について
  - 1) 研究依頼
  - 2) 研究対象者への説明
  - 3) 研究参加の任意性
  - 4) 倫理的配慮
  - 5) 研究倫理審査を受ける
  - 6) 著作権
  - 7) 引用文献
  - 8) 二重投稿
  - 9) 検討事項

### 引用文献

黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step, 第3版, 学研, 2006.

竹内登美子：ナース専科 books 臨床看護研究サクセスマニュアル, 株式会社アンファミエ, 2008.

### 【講師】安田 千寿（老年看護学）

専門は老年看護学で『認知症高齢者の不安軽減』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	量的研究 質問紙調査の方法 Excel を活用したデータ処理 基礎統計について	担当	加納 亜紀
日時	平成 28 年 7 月 28 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30 (質問紙調査の方法) 12 : 30 ~ 14 : 00 (データの種類と統計) 14 : 10 ~ 15 : 40 (Excel によるデータ処理)	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

Excel の基本操作について確認し、研究を進める上で必要なデータ処理に関するスキルを身につけることを目的とした講義である。具体的には、演算式や関数を用いた表計算の方法やグラフ作成や編集の方法について、実際のデータを用いて演習を行うものとする。

### 2) 講義の到達目標

- ① Excel の画面構成とセルの編集方法について理解し、操作できる
- ② 演算式や関数を用いて、データを処理できる
- ③ 目的に合わせたグラフを作成し、分かりやすく編集できる

### 3) 講義内容

1. 量的研究とは
2. アンケート調査の方法と留意点
  - 1) アンケート調査の利点と問題
  - 2) 基礎資料の重要性
  - 3) 標本数とサンプリング
  - 4) 質問紙の作り方
  - 5) プレテスト
  - 6) 倫理的配慮
3. データの種類と統計処理
  - 1) データの種類
  - 2) 記述統計と推測統計
4. Excel による基本的なデータ処理の方法と手順
  - 1) raw data ファイルの作成
  - 2) 記述統計 (単純集計) から推測統計まで

#### 【講師】加納 亜紀 (養護教育)

専門は教育学 (養護教育) で『養護教諭の保健指導』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	質的研究・面接調査の方法 分析方法について	担当	西垣 里志
日時	平成 28 年 8 月 19 日 (金) 10:00~11:00 12:00~13:30	場所	地域・在宅・精神看護学実習室

### 1) 講義の概要

質的研究の方法について学ぶことを目的とした講義である。質的研究方法の概要，面接調査の方法について講義を受けた後に演習にて，例題の逐語録のデータを分析し，コード化・カテゴリー化の方法について理解することができる。

### 2) 講義の到達目標

- ①質的研究の方法について理解できる
- ②面接調査の方法について理解できる
- ③データ分析の演習を行うことにより，逐語録をコード化，分析することができる

### 3) 講義内容

<p>1. 質的研究について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 質的研究とは</li> <li>2) 質的研究の方法</li> <li>3) 研究計画書の構成・倫理委員会への審査書類</li> <li>4) 質的研究における倫理的配慮</li> <li>5) インタビューについて（構造化・半構造化・非構造化インタビュー）</li> <li>6) 信頼性と妥当性を高めるために</li> <li>7) データの分析</li> </ol> <p>2. データ分析の演習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 逐語録をコード化する</li> <li>2) コード化したデータを分析し，サブカテゴリー，カテゴリー化する</li> </ol>
---

### 引用文献

- 松木光子・小笠原知枝：これからの看護研究－基礎と応用－，廣川書店，東京，2001.  
 川口泰三：看護研究ガイドブック，医学書院，東京，2004.  
 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step，学研メディカル秀潤社，東京，2010.  
 南裕子：看護における研究，日本看護協会出版会，東京，2010.  
 及川慶浩：看護研究ポスターセッション，メディカ出版，大阪，2010.

### 【講師】西垣 里志（精神看護学）

専門は精神看護学で『精神障害者の家族の負担軽減』に関する研究に取り組んでいる。



講義テーマ	学会発表の方法 口演・示説	担当	中島 真由美
日時	平成 28 年 8 月 19 日 (金) 13:45~15:15	場所	第 4 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

学会発表の意義と方法について学ぶ。また、スライド・ポスターの作成、学会発表の方法や諸注意事項について学習する。

### 2) 講義の到達目標

- ①学会発表までの準備，流れが理解できる
- ②学会発表当日の注意点が理解できる
- ③学会発表のための PowerPoint の基本的な使い方が理解できる

### 3) 講義内容

1. プレゼンテーションについて
  - 1) プレゼンテーションとは
  - 2) 伝え方を工夫することについて
  - 3) 発表形式について (口演・示説)
  - 4) 学会発表の内容構成について，学会発表までの準備，流れ
2. パワーポイントを使ってのスライド作成について
  - 1) 作成前の確認
  - 2) 作成時のポイント
  - 3) 作成方法
3. ポスター作製
  - 1) ポスターの作製方法について
  - 2) ポスター作製の演習
4. 学会発表の注意点について
  - 1) 発表原稿について
  - 2) 発表時の注意点について

### 引用文献

- 斎藤裕之・佐藤健一：JJN スペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション，医学書院，2010。  
 早川和生：JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方，第 2 版，医学書院，2012。  
 及川慶浩：改訂第 2 版 初めてでも安心！ナースのための研究発表のツボ 211 プレゼンテーションがうまくいく！，メディカ出版，2011。  
 ガー・レイノルズ：プレゼンテーション Zen，ピアソン・エデュケーション，2009。  
 河合浩之：プレゼンは「心を動かす」コミュニケーションの時代へ すごプレ，青志社，2010。

### 【講師】中島 真由美 (成人看護学)

専門は成人看護学で『慢性疼痛，疼痛緩和』に関する研究に取り組んでいる。



### 1-3 研究相談（概要）

9月9日（金）に個別研究サポート・個別研究指導を行った。相談者数は31人であった。研究テーマが有る相談者数は30人、無い相談者数は1人であった。指導教員は、22人で、相談者の希望する領域や研究テーマに合わせて個別に対応した。

#### 1. 研究相談内容

- 1) 研究の問いをどのように絞り込めば良いか
- 2) 研究のテーマについて
- 3) 研究方法について
  - ・実態調査，事業評価，介入研究，意識調査について知りたい
  - ・研究手法がわからない（量的研究，質的研究どちらがよいのか）
- 4) 質問紙の作成方法について
- 5) インタビュー調査の方法について
- 6) 研究結果の書き方について
- 7) 考察の書き方について
- 8) 学会発表のパワーポイントについて
- 9) 学会誌への論文投稿について
- 10) 研究の指導について

#### 2. 教員の指導内容

- 1) 研究の問いをどのように絞り込めば良いか
  - ・対象者を絞ること（患者対象か看護師対象か），文献検討を行うことが必要である。
  - ・参考になる文献を提示した。
  - ・概念図を書いてみるとわかりやすくなる。
- 2) 研究テーマについて
  - ・テーマは論文の顔であるため，テーマを見たら論文の内容がわかるようにしたほうが良い。
  - ・対象と目的を明らかにするようなテーマにする。
- 3) 研究方法について
  - ・目的に合った研究方法について提案した。
  - ・何を明らかにしたいのか明確にし（目的・方法・対象），まずは研究計画書を書くことが大切である。
  - ・研究方法を学ぶための文献を紹介した。
- 4) 質問紙の作成方法について
  - ・概要がわからないならインタビューが良い。
  - ・アンケートを5段階にすると中央に偏る傾向がある。そのため，四分位の方が適切である。これなら $\chi^2$ 検定ができる。

- ・尺度の使用方法について説明した。
- ・比較するのであれば、前後で同じアンケートを利用しても良い。
- ・質問紙の調査項目は先行研究から絞っていくと良い。
- ・回答者が回答しやすいようにすべき、アンケートにもストーリー性があるといい。
- ・質問紙作成のための文献を紹介した。

#### 5) インタビュー調査の方法について

- ・半構成的面接法とグループインタビューについて文献を紹介した。
- ・構成法，半構成法のインタビューの方法について助言した。
- ・目的に合わせたインタビュー対象者の提案をした。

#### 6) 研究結果の書き方について

- ・研究結果がどのような対象から得られたものかを明記して、他の人にわかるようになっていけばよい。

#### 7) 考察の書き方について

- ・結果にあることを考察するようにする必要がある。
- ・考察を行う際に、他の文献からの裏づけがあるとより深まる。

#### 8) 学会発表のパワーポイントについて

- ・パワーポイントの記載の方法については、研究の背景と、目的をしっかりと明記すること。図表の書き方を説明した。

#### 9) 学会誌への論文投稿について

- ・研究発表するためには倫理審査委員会の承認を得なければならないことを説明した。

#### 10) 研究指導について（研究の指導を行う立場であるが、研究指導が難しい）

- ・研究メンバーと一緒に考え、研究方法、分析を一緒に行っていくようにする。

n=27

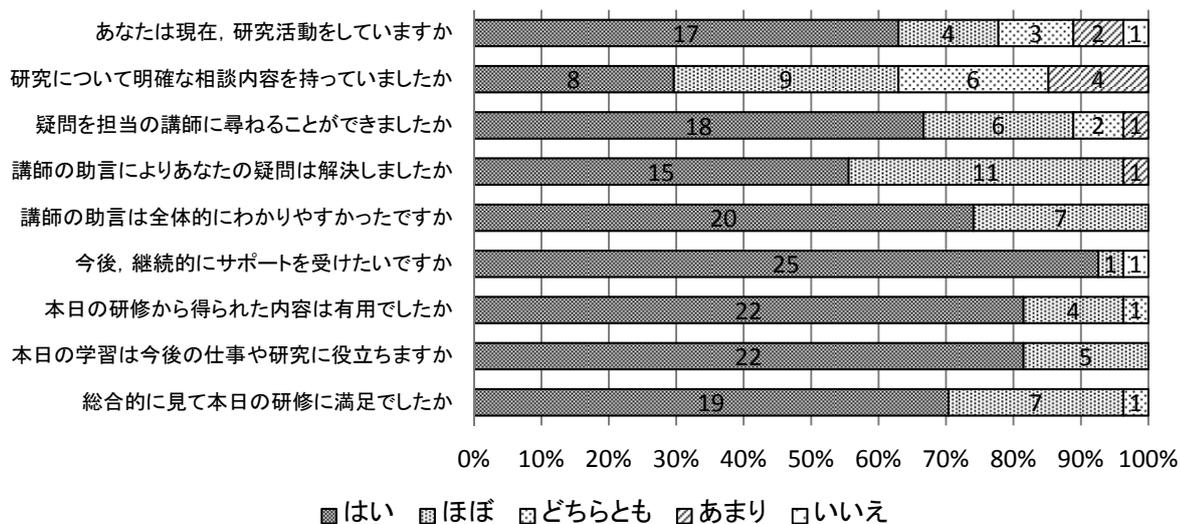


図1 個別相談評価

今回の個別相談では、7割の人が研究に取り組んでいると回答し、明確な疑問を持って相談に臨んでいた。また、9割の相談者は疑問を担当の講師に尋ねることができた。相談者全員から講師の助言は全体的にわかりやすかったとの回答を得られた。さらに、相談を受けた9割が、継続的にサポートを受けたいと希望していた。(図1)

昨年に比べて、ほとんどの相談者が研究に着手していたため、具体的な研究内容の相談が多く、教員が個別に合わせ相談に応じられていたと推察できる。

また、キャリアアップ講座の修了後に継続的な研究指導の依頼が5人あり、臨床での研究活動の向上に貢献できている。

### 3. 個別相談に対する感想

- ・事前資料の提出なく要約しながら研究説明を行うスタイルで自分の研究で何を伝えたいかをもう 1 度考えることができた。ファシリテートしていただきながら前向きな発言，相談が行えた。
- ・研究に対してわからない点や不安な部分ばかりで悩んでいる部分も多かったが，助言をもらったことでまた頑張ろうと思った。
- ・進んでいない研究でこちらの主旨もまとまっておらず先生方のご指導で少し光が見えた気がする。また自分自身を律する意味でも講座に参加させていただきありがたいと思う。
- ・少人数で対応していただいたので質問しやすかった。現在進行させている資料に対しても指導があったよかった。今後も指導を頂けるといふことでありがたいと思う。
- ・事前にお渡しして添削してもらいたかった。
- ・司会の役割について統一事項くらいしか思っていなかった。
- ・事業評価から始めること，公衆衛生学の基礎が今の活動にも重要だと反省した。時代の流れに遅れていることに気づいた。
- ・相談をして行き詰っていたことが解決していけそう。自分たちでは考えていけなかった所での方法を知ることができた。とても相談できてよかったと思った。楽しかった。
- ・少人数で対応していただきありがたいかった。前もって個別相談の方法についてアナウンスがあればよかったと思う（少人数のグループに分かれてそれぞれに先生がつくなど）。
- ・先生の知識が豊かで熱心に話をくみ取ろうと聞いて下さるところに，より学びたいと思う。実際に研究発表を聞きたいと思う。
- ・全体では聞けないことを具体的に聞いて良かった。
- ・初めての研究で具体的なテーマやどのように進めていくべきか迷っていましたが，先生と話している中で研究方法やテーマが明確になった。
- ・今回この講座に来ている人の多くが，現在研究に取り組んでいる人がほとんどだと感じたので，個別相談を 9 月のほかに 12 月くらいにももう 1 度行ってもらえるとありがたい。
- ・個別相談の時間がもう少しあったほうが良かった。
- ・細かいところのご指摘ありがとうございました。
- ・個別相談に乗ってもらい，いろいろな意見を頂いて本当に良かった。
- ・院外の方の意見を聞くのはとても有意義だったと思った。
- ・違った視点，意見がもらえてよかった。内容が明確になってよかった。
- ・個別に相談をさせていただき，自分の研究での指標や変数の甘さや目的が少しずつブレてしまっていたことに気づいた。今日助言していただいたところは修正していき，よりよい研究にできたらと思う。
- ・楽しく意見交換ができた。本当に感謝している。個別相談を今後もおこなってほしいと思う。
- ・研究で明らかにしたいことが明らかになった後，どう今後につなげていきたいのかすっきりした。

## 1-4 キャリアアップ講座（看護研究）アンケート結果

受講者の自己評価アンケートは、第1回研修「キャリアホップ」、第2回研修「キャリアステップ」、第3回研修「キャリアアップ」ならびに、第4回の研究相談「キャリアサポート」、第5回研修「キャリアジャンプ」において実施した。受講者の受講動機や受講後の自己評価を振り返り、受講者にとってのキャリアアップ講座の有用性について評価するとともに、今後の課題を得ることを目的とした。

アンケートの回答は任意とし、倫理的配慮については、第1回研修時のオリエンテーションにおいて口頭で説明したうえで、研修終了後に回収した。

### 第1回～第3回の講座

ここでは、第1回研修「キャリアホップ」、第2回研修「キャリアステップ」、第3回研修「キャリアアップ」後のアンケート結果をまとめた。

今年度の受講登録者数は37人であり、前年度よりも12人増加した。アンケートの回収数は第1回37人（回収率100%、有効回答率100%）、第2回42人（回収率95%、有効回答率100%）、第3回40人（回収率100%、有効回答率99%）であった。

#### 1) 基本属性（表1）

年齢層は30～40歳代が約7割を占めており、看護の経験を積み重ねた熟練看護師がほとんどであり、臨床において研究を指導する人材育成につながると考える。また職種は、例年の看護師・保健師以外に介護職などがあり、様々な施設へ本学のキャリアアップ講座が少しずつ広まってきているため受講生数が増加したと考えられる。キャリアアップ講座が開設して6年目であり、引き続き臨床や福祉施設へ幅広く受講生を募っていきたい。

表1 キャリアアップ講座受講者の属性

個人の属性	第1回 (n=37)		第2回 (n=42)		第3回 (n=40)	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
性別						
男性	4	10.8	4	9.5	4	10.0
女性	33	89.2	37	88.1	35	87.5
年齢						
20歳台	7	18.9	6	14.3	6	15.0
30歳台	12	32.4	9	21.4	12	30.0
40歳台	15	40.5	21	50.0	18	45.0
50歳台以上	3	8.1	5	11.9	3	7.5
職種						
看護師	32	86.5	33	78.6	30	75.0
保健師	4	10.8	4	9.5	3	7.5
助産師	1	2.7	1	2.4	2	5.0
介護職	0	0.0	1	2.4	1	2.5
その他	0	0.0	1	2.4	3	7.5
所属施設						
病院	31	83.8	33	78.6	28	70.0
介護老人保健施設・老人ホーム	1	2.7	0	0.0	1	2.5
訪問看護ステーション	1	2.7	0	0.0	1	2.5
保健所	1	2.7	2	4.8	2	5.0
その他	3	8.1	5	11.9	6	15.0

## 2) 第1回～第3回講座について

各回の講義のテーマと内容の一致に関しては、大半が一致していたと感じていた（図2, 3）。第3回ではパソコンの操作に対しては、個人差があるため事前課題や演習を希望した受講生からの意見があった。また、講義内容の理解に関しては、大半が理解できたと回答していたが、第2, 3回では3名があまり理解できなかつたと回答していた。講座のテーマと内容は、受講生のニーズに応じたものが望ましく、本学キャリアアップセンターの目的につながるよう事前課題や演習について講師との調整が必要である。

### <共通項目>

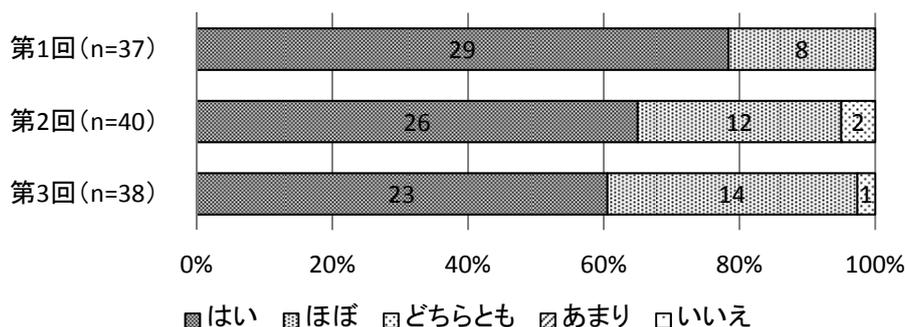


図2 講義のテーマと内容は一致していたか

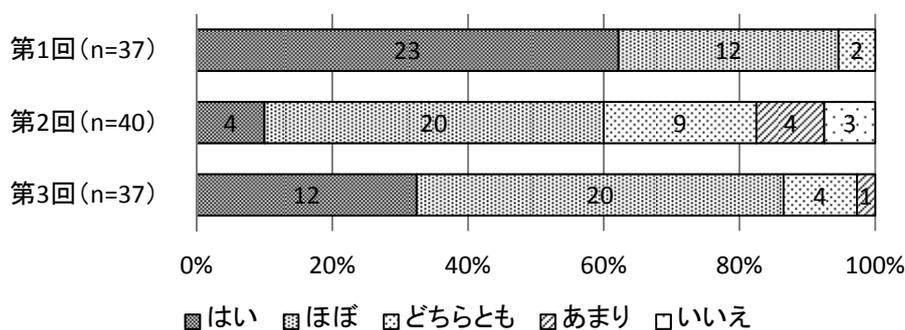


図3 講師の説明はわかりやすかったか

### <各講座の内容に関する項目>

第1回の講座は、研究の方法と進め方に関する内容であり、ほぼ全員が理解できたと回答していた（図4）。第1回の講座は、研究に対するモチベーションを向上させるための導入的な位置づけであり、受講生の意欲向上につながる内容であったと考える。クリティークの講座は、1論文を題材とし全体で論文を批判的に読む内容であった。受講生からは、文献検索の講義を希望する意見があり、日頃から論文に触れる機会が少ない背景があると考えられ、継続していく必要があると考える。本学キャリアアップ講座において演習を通してクリティークが体験できる機会であり、今後継続して論文に触れる動機づけになったと考える。

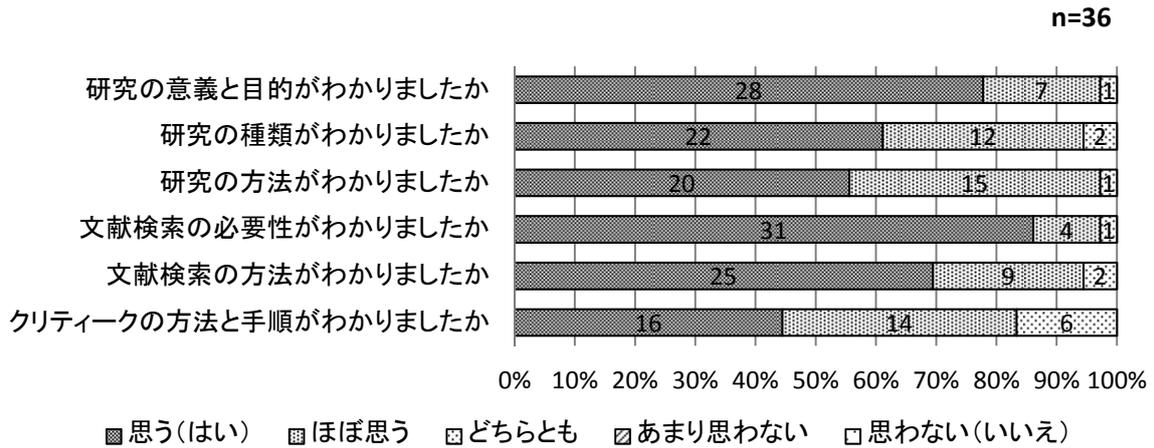


図4 第1回研修の受講者評価

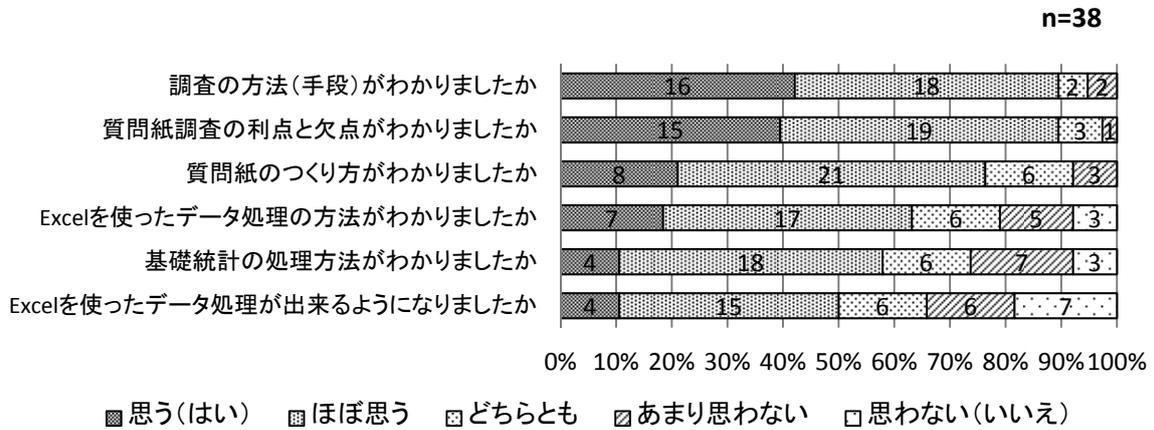


図5 第2回研修の受講者評価

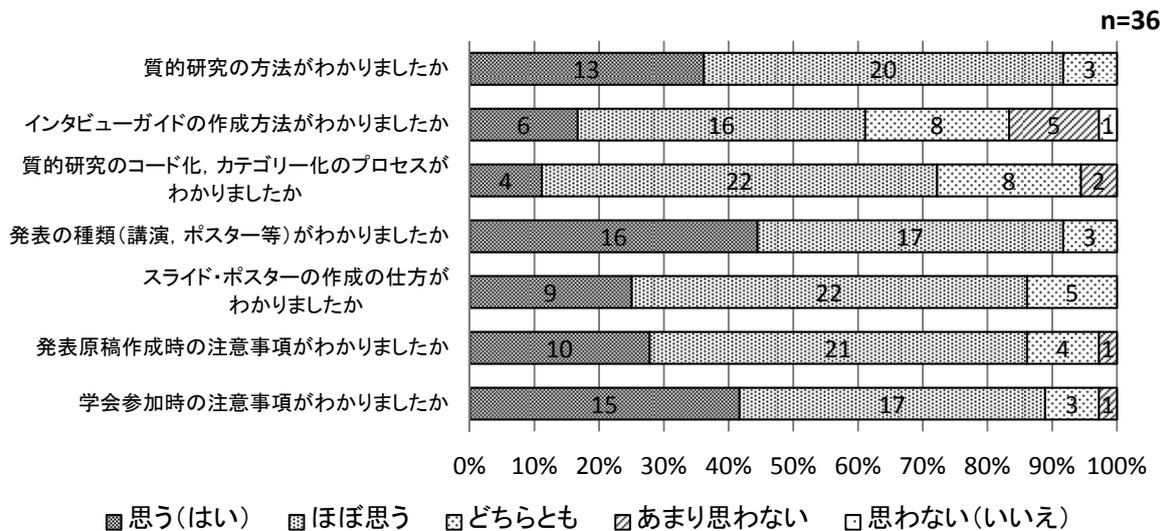


図6 第3回研修の受講者評価

### 3) 講義資料 (図 7~10)

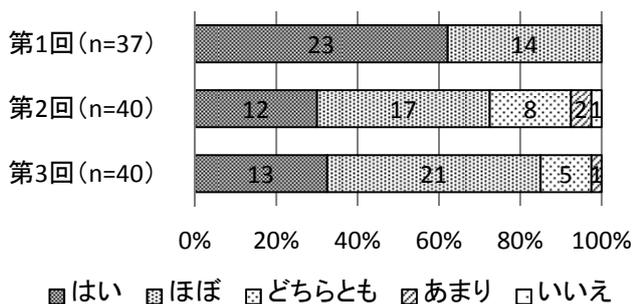


図 7 講義内容に合った資料か

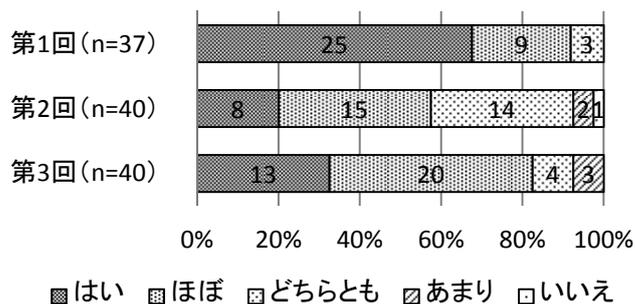


図 8 資料は理解しやすい内容か

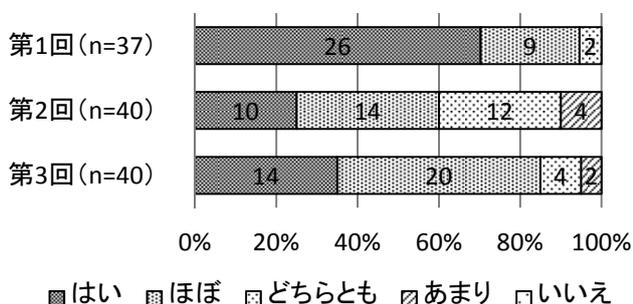


図 9 資料の量は適切か

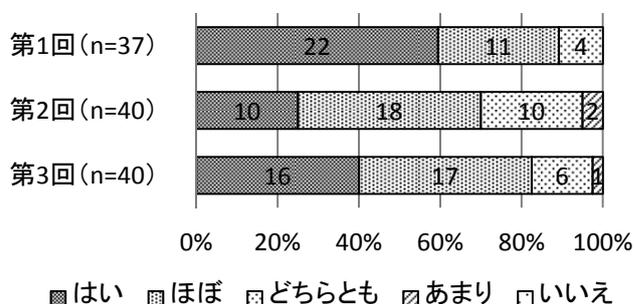


図 10 今後に活用できる資料か

### 4) 環境・整備 (図 11~15)

教室の環境は、パソコンを使用する講座では本学の情報センターが会場であり、空調調整についての意見はなかった。スタッフの支援については、ほぼ全員がスタッフの支援があつてよかったと回答しており、Excel や PowerPoint 習熟度に関係なく、その場での対応が効果的であったと考える。

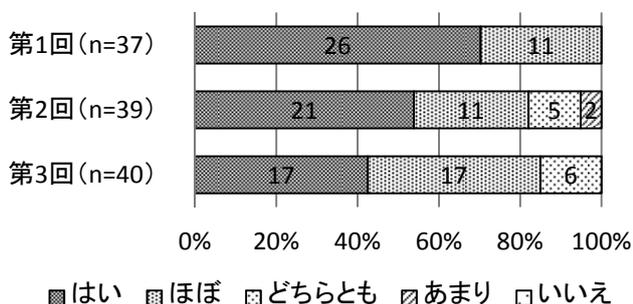


図 11 教室環境は適切な学習環境か

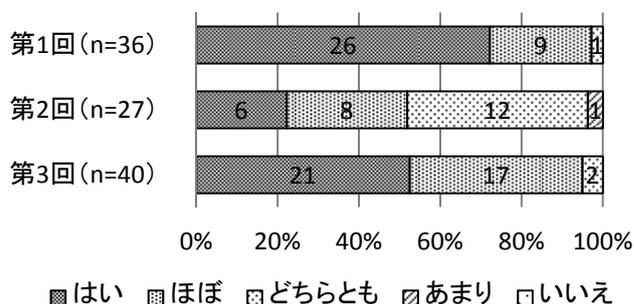


図 12 パワーポイントは見やすかったか

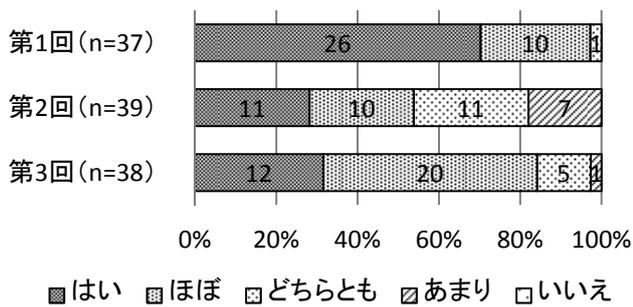


図 13 パソコン利用の説明とパソコンの使い方が  
わかったか

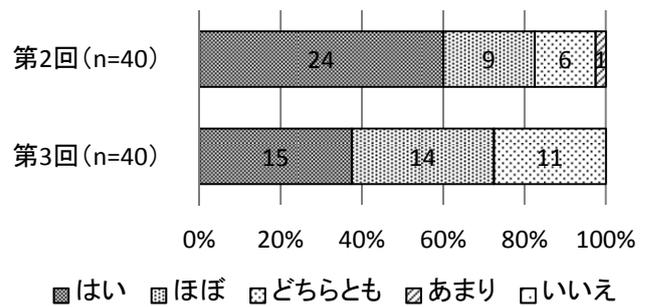


図 14 スタッフの支援があつてよかったか

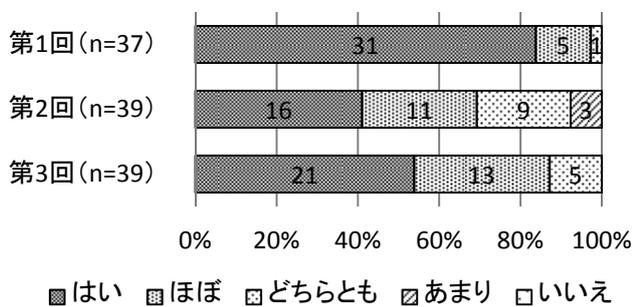


図 15 受講人数は適切か

## 5) 総合

「今日の研修は学びたいと思っていた内容でしたか」の問いでは、各回全員がほぼ満足しており、受講生の年齢、職種、勤務先は様々であるが、本学キャリアアップセンターの機能である地域の医療関係者の研究をテーマとした講座および研究のサポートの役割と受講生の期待に応じた内容で構成されているといえる（図 16）。今後も引き続き地域医療関係者のニーズに合わせた支援ができる内容を継続していきたい。

「今日の研修から得られた内容は、有用でしたか」「今日の学習は、今後の仕事や研究に役立ちますか」の問いでは、約 8 割が今後に活かせると回答していた（図 17, 18）。

「総合的に見て、今日の研修に満足されましたか」の問いでは、第 1 回は全員が満足していたが、第 2～3 回は満足したと回答したのは約 8 割であった（図 19）。研究方法についての内容と、パソコンを使用する際の演習では、受講生のパソコン使用技量が影響するため満足度にも反映されたと考える。「看護研究のモチベーションを向上することができましたか」の問いでは、約 8 割ができたと回答していた（図 20）。このことから、研修のニーズが高いと考えられた。

本学キャリアアップ講座は全 4 回で構成されており、受講生のニーズを把握し、講師やサポーターとの調整を行い、受講生に応じた支援ができるよう本講座を今後も発展させていきたい。

「就職後、研究を学ぶ機会がありましたか」「研究に対する現在の意欲についてお尋ねします」については、2.5 割が「あまり」「いいえ」と回答している。本講座において、「看護研究のモチベーションを向上向上することができた」と回答していることから、地域の臨床研究の発展に寄与するものと考えられる（図 21）。

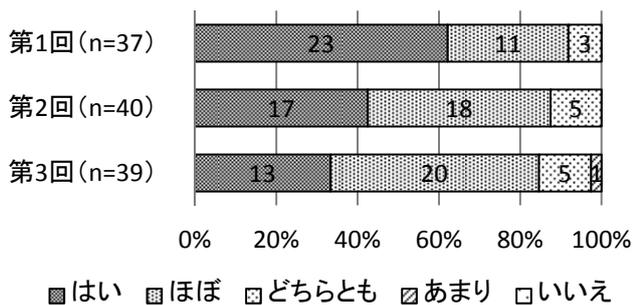


図 16 今日の研修は学びたいと思っていた内容か

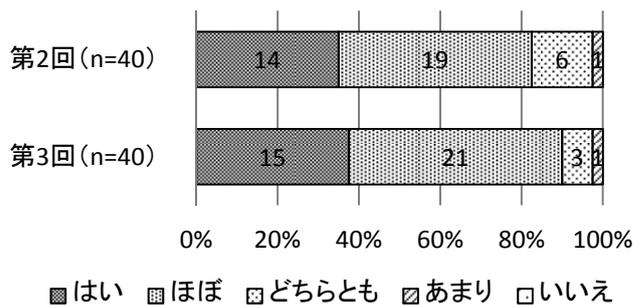


図 17 今日の研修から得られた内容は有用か

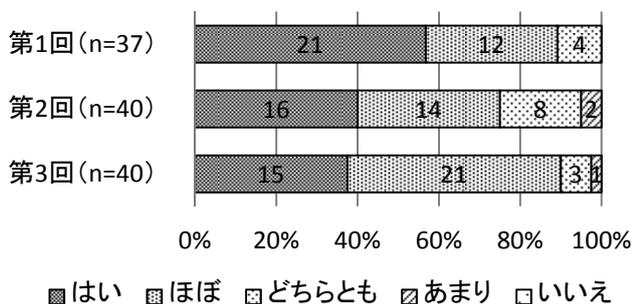


図 18 今日の学習は、今後の仕事や研究に役立つか

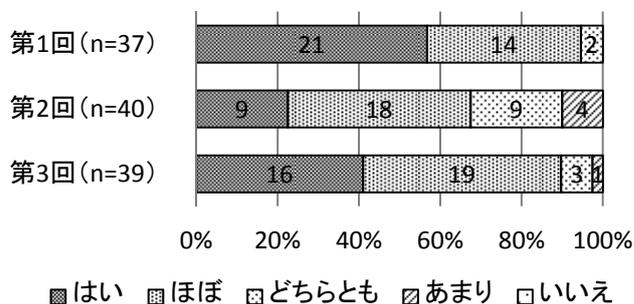


図 19 総合的に見て、今日の研修に満足か

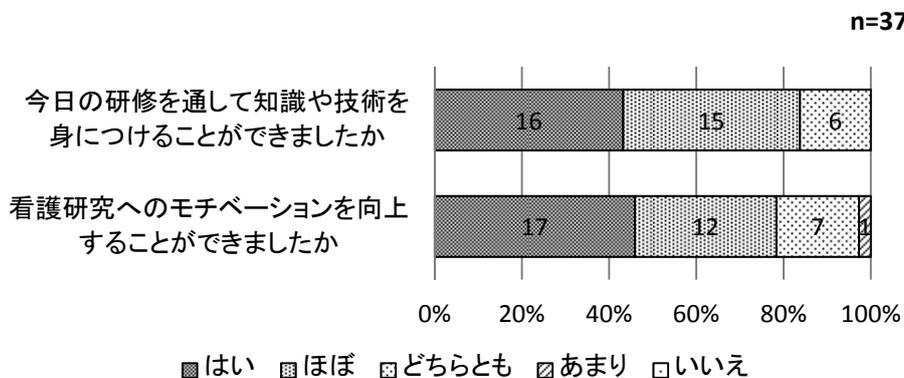


図 20 今日の研修を通して知識や技術を身につけることができましたか  
看護研究へのモチベーションを向上することができましたか

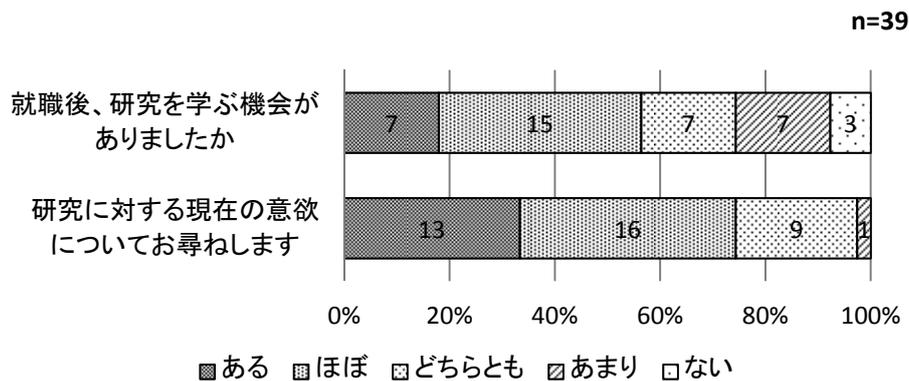


図 21 就職後、研究を学ぶ機会があったか  
研究に対する現在の意欲について

6) 募集および開催期間、受講料、キャリアアップ講座のタイムスケジュール

募集時期や開催時期、受講料については、いずれも適当であるとの回答であった。(図 22, 23, 表 2)

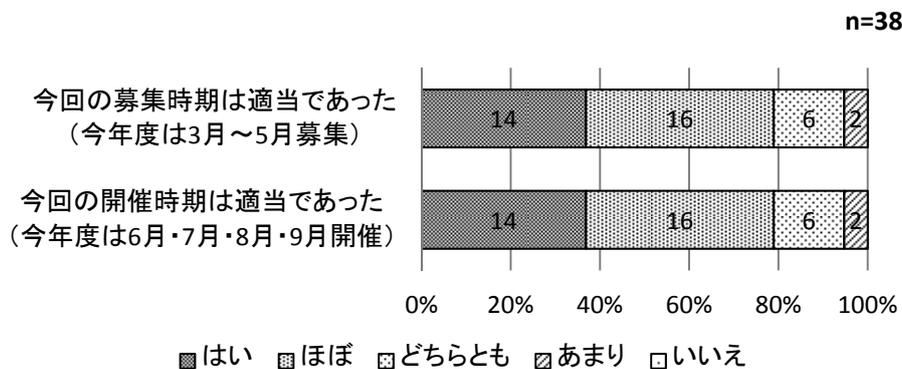


図 22 募集期間、開催時期

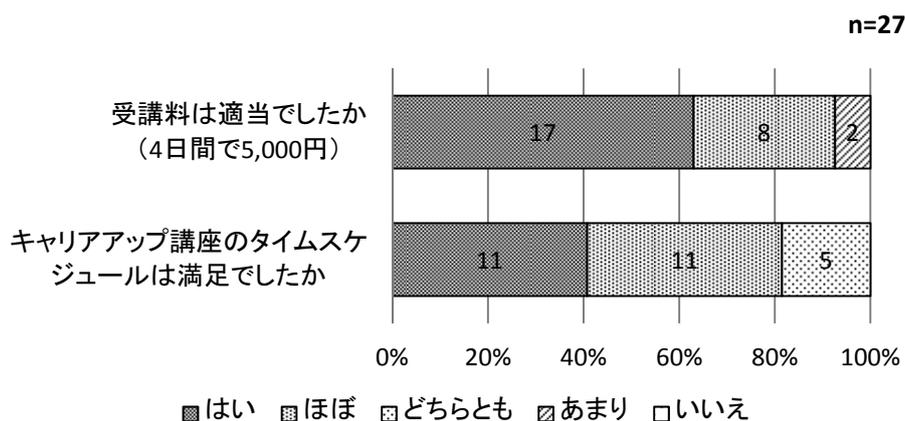


図 23 受講料、キャリアアップ講座のタイムスケジュールは満足か

**表 2 今回の募集時期, 開催日の希望****記述回答(n=11/40)**

- ・あと1ヵ月くらいはやいと事前に聞いたあとでとりかかれるので良かった。
- ・当院の発表は7月なので、1月～4月までの開催日であれば、ありがたい。
- ・2月に発表なので、4月頃から開催してもらえると、早くから取り組んで、質問等がしやすい。
- ・初回が5月にあると、今年度の研究に活かせる事が多いと思う。研究計画書の提出があるため。
- ・発表が1月なので、データ集めなども考慮したとしても少し早い方がうれしい。
- ・今年度研究に取り組んでいる人たちにとっては、時期がずれていると思う。
- ・新年度の委員会や役割、ラダー研修の決定が、4から5月の為、それ以降の募集が有り難い。真夏の受講は子どもの夏休みと重なるので避けていただけるとありがたい。
- ・開催時期を8月～11月にしてもらえると、自分の使用とする研究も具体的に結果が出てくる時期なので、有り難い。
- ・できれば、自分が研究をする前に知っておきたい。同時進行だとわからないことがある(4月から研究を行っているため)

**7)今後の研修テーマ**

本学キャリアアップセンターにおいて、今後学んでみたいテーマの希望があった。研究に関するテーマは、文献検索、研究方法に関する事、質的研究についてのワークについてであった(表3)。また、研究以外のテーマでは、アンケート調査の実施方法について、エクセルの使い方、がんや認知症などの専門的なことについてであった(表4)。本学キャリアアップセンターでは、研究相談活動を常に行っているため、随時連絡できることを受講生へ伝えつつ、本学看護学研究科(修士課程)への進学により学びを深める機会があることをアピールしていく。

**表 3 研究に関するテーマ****記述回答(n=4/40)**

- ・もう一度、量的、質的研究について受講したい。
- ・量的、質的にもう1日でも時間があればいいかと思った。
- ・引き続き質についてワークをおこなって欲しい。
- ・文献検索

**表 4 研究以外のテーマ****記述回答(n=3/40)**

- ・アンケート調査の実施方法について(研究ではなく、事業評価として)
- ・エクセルの使い方をしっかりと学んでみたい。
- ・専門的なこと(がんや認知症など)

## 8) 研究活動

研究について感じていることについては、研究の必要性を感じつつも研究への苦手意識や時間的な負担や強制感が聞かれた。しかし、職場の同僚などで研究を学びたいという意見が7割あり、本研修はニーズの高いものであることが推測される(図24)。また、本年度からは大学院生が参加しており、研究へのポジティブな意見がみられた(表5)。

受講者の背景には、看護職の不定期な勤務状況や仕事をこなしながら研究のための時間を作る困難さが考えられる。また、看護の質の向上のために看護研究に取り組んでいる施設も多く、研究方法の知識が未熟でも必然的に取り組まなければならない実態を抱えていることも明らかになった。一方で、受講生の施設の多くは、本講座の受講を上司がすすめており、所属部署や管理部門のバックアップを得ている。臨床の場において、研究に取り組みやすいサポート体制を看護管理者等と検討し、本講座の活用ができればよいと考える。

表5 研究に取り組むことについて感じていること

記述回答(n=26/40)

- ・ 時間外で取り組むには限界がある。職場で強制されている感があるので。
- ・ 業務改善の手段になってしまうが、スタッフで話し合う機会にもなり、説得力になるので、下手でも継続しながら学んで、現場に活かしたい。
- ・ 積極的に取り組みたいですが、受講内容が大きすぎて、尻込みしている。
- ・ 事業計画、評価には研究の視点が役立つ。学会発表をすることは、職場での上司へのプレゼンにも役立つ。
- ・ 業務が多忙な中、研究をする時間がなく、残業もつかない。
- ・ 研究により、より細かなことにも、注意や関心を向けるようになり、仕事への意欲が高まった。研究結果により、今後どのようにしていくのか、具体的に考えるようになった。
- ・ 職能の向上、また仕事のアウトプットを示す上で、必要なことであると感じている。
- ・ グループで取り組むと言っても、結局リーダーに当たる人がメインで動くことになり、普段の業務の負担になると感じ、苦手。
- ・ 実施することで、今回学んだことを活かしていきたい。まずは、日ごろの疑問を活かしていきたい。
- ・ すごくエネルギーを使う大変なことだと思っている。
- ・ 業務的でなく、自分がやりたいと思う研究に取り組めたらもっと楽しいのと思った。
- ・ 看護研究自体は、必要性も理解しているが、業界全体に仕事外とするものという風潮に疑問を感じる。
- ・ 難しいけど、少しずつ学びを活かしていきたい。
- ・ 研究に関しては、楽しいと思う事もあるが、わからないことも多くて不安。
- ・ 自分も周りもプラスになる。
- ・ 時間があれば、どんどん取り組みたいが、時間がないのが現状。
- ・ 臨床で行う時は、どうしても負担感が強く、みんなやる気もない、特に統計については、皆無である。
- ・ 負担
- ・ 本音は、しんどいですがやってみると達成感はある。できるだけ頑張りたい。
- ・ 看護師として仕事をしているので、必要なことだと感じている。
- ・ 知りたいと思う事が明確になるまでは、やることの多さに、研究に取り組むのがおっくうになる。

- ・とても重荷に感じている。
- ・研究を行うことで、疑問に思っていたことを解明できる。それが、誰かの役に立てたらうれしい。
- ・院生ですので頑張りたい。現在リサーチクエストを絞っている。職場で取り組む看護研究を楽しく取り組めるようになっていきたい。（やらされ感の研究ではなく）
- ・まだまだ不安はあるが、講義で学んだ内容をさらに深められた。
- ・これから後期に向い研究計画書を書いて、研究を進めていかなければならないので、本日の講義はとても参考になった。頑張りたいという気持ちを持ち続けていきたい。

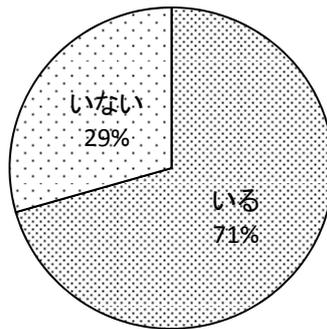


図 24 職場の同僚などで研究を学びたいという方はおられますか

表 6 これまでに研究について研修を受けた方は、どのような研修でしたか

記述回答(n=11/40)

- ・研究計画書の部分を焦点にしたものだった。
- ・看護協会での研修を受けたがパソコンなどの実施はなかった。
- ・以前参加したものは、看護研究の進め方についてのもので、1日でスピードも速く進んで、質問もしにくかった。
- ・認知症の方への対応、脳卒中リハビリについて、精神科の薬について。
- ・基礎の内容。
- ・計画書の書き方、発表原稿の書き方など。
- ・質的研究、量的研究の定義や方法はよく研修されているが、パワーポイントやデータのまとめ方、発表のポイントなどはほとんどなかった。
- ・病院での研修。
- ・パソコンの操作より、質であれば、コード分類等の具体的な内容の方が良かったかなと感じている。
- ・病院内の研修会で学んだ。発表原稿の作り方、発表の仕方など。
- ・少し看護協会で学んだ。（質的研究と量的研究の違い）院内の伝達講習。

## 9) その他

受講生に本講座を受講した感想・意見については、以下の回答を得た（表 7～9）。

**表 7 第 1 回研修会の感想・意見など**

**記述回答(n=16/37)**

- ・研究をあまりしていないのでまだまだイメージしにくく難しく感じる内容も多かったように思う。
- ・基礎から丁寧に説明していただきわかりやすかった。
- ・勤務時間 4 人で看護研究の時間を与えられているためそもそものモチベーションが低い。
- ・研究方法などわかりやすかった。できたら 5 月や 6 月開講していただけると嬉しい。
- ・看護研究の指導者のレベルというのはどこまでが必要なのかよくわからず難しさを感じた。
- ・ファイル等を準備していただいてよかった。わかりやすく頭に入る内容であった。
- ・取り組んでいる看護研究に本日の学びを落とし込んでいくと学びも研究も深まると思った
- ・細かい部分まで講義を聞くことができてよかった。各自が持つ看護研究について助言を頂ける時間があればよいなと思った。（昼休み等）
- ・研究の種類とクリティークの内容が難しかったので復習していきたい。
- ・研究の進め方が細かく分かった。
- ・内容はわかりやすかった。環境などの配慮をしてくださったことも伝わってきた。
- ・自分の苦手な部分が再認識することができた。メモしきれなかった所はあったが大体理解しやすい資料だったと思う。
- ・看護研究の概要が理解できた。看護研究を始めるにあたり自分の中でしっかりと目的・動機をブレることなく持つということが大切だと思った。
- ・受講生の動機やレベルに応じた講義内容でないとアンケート項目が不適切かと思われる。ホップステップの内容で一部選択であっても良いのかと思う。
- ・研究の大まかな流れは理解できた。指導していて文献検索できない人が多い。実際の文献検索や文献の取り寄せ方など具体的な方法が聞ければよかった。クリティークも実際に自分たちで読み取れる時間があればよかった。
- ・私にとって内容が多くて身についたか不適切。もう 1 度見直したい。
- ・利益相反についても学びたかった。

- ・講義内容は丁寧で分かりやすかったが正直ついていけなかった。
- ・エクセルに関しては初心者すぎたが、使いこなせれば大変便利で活用的だと改めて思った。
- ・説明が早すぎる。説明内容をもう少し資料に追記してほしい。
- ・グラフ作成をもっと教えてほしかった。
- ・この研修で課題になっていた講義だったのでとても勉強になった。
- ・同じ施設から 2~3 名の参加のせいなのか講義中に私語があり、集中して聞くことができないときがあった。費用を負担して参加しているので気を付けてほしい。
- ・質問紙の作り方をもう少し具体的に聞きたかった。とても分かりやすくもっと聞きたいと思った。
- ・エクセルの操作は毎年のこととは思いますが、能力に個人差があり、内容を統一するのは難しいと思う。事前課題として、最低レベルは習得していただしておくか、教室を 2 つに分けるなどしてもう少し高いレベルまで学べたらいいのと思った。テキスト等でここに学べる内容ではなく、それでもわからない内容を学べたらと思う。
- ・エクセルの使い方を学べてよかった。基本の操作もわからない状態だったのですごく勉強になった。
- ・講義中にしゃべっている人がいて集中できなかった。(前回もあった)午後からは進行が速すぎてついていけなかった。特定の人にフォローがずっとついていたので質問がしにくかった。
- ・先生が教えてくれようとした内容や目的は受講者の目的と一致していたのかわからなかった。今後の参考にはなったが、目的がずれていたように感じたので、できないことが駄目なことに感じた。最初から自己学習をしないといけなかったのかもしれない。大きな研究に使用するというよりは、研究の第 1 段階というイメージだった。
- ・推測統計がわからなかった。「エクセル初心者の人には」という言葉が多く傷つく。
- ・統計処理の基本を知ることができ、先生の話もとても分かりやすかった。
- ・資料を見ながらでもパソコンを操作できるので、今後も活用できる資料だと思った。講師の方の話すスピードが速かったのでもう少しゆっくり話してもらえるととてもわかりやすかった。パソコンの専門用語も多かったので、余計についていくのが大変でした。
- ・パソコンの実力がないと本日の講義についていけないことがあり、午後は資料とパソコンの講義が混乱した。
- ・わかりやすく説明していただきよかった。もう少し聞きたい内容があるがこの時間内では十分だった。
- ・本を買って自分でトライするしかマスターできないことを痛感した。あきらめず頑張ろうと思った。
- ・今まで別で集計してワードでグラフを作成していたので、今回エクセルの操作は習得できたらすごく便利だなと思った。練習は必要だと思った。
- ・講師が話されたことが資料でほしい。後で見直す資料となる
- ・エクセル入門の本を買おうと思った。少し知っていれば今日の講義内容は大変興味深いものだったので理解に至れたかな、と思った。
- ・エクセルがほとんど分からずついていけなかった。何人が理解できているのだろうと感じた。知りたい内容ではあったので午前中はとても勉強になった。講師の方がいろいろ教えてあげたいという思いは伝わるが、早口であり、理解する前に次に進んで行ってしまった状況だった。勉強が必要だと感じた。

- ・講義の内容と資料が今どこを説明しているのか分かりにくかった。集計表以後は早すぎてよくわからなかった。基礎と応用が混ざっていて難しかった。表計算ソフトは他社もあるので、最初に一言だけでも説明があると…「この講義ではエクセルを使う」とか。少ない時間の中でこれだけの説明は困難だったと思う。自己学習しようと思う。
- ・エクセルは難しいけど頑張りたい。
- ・エクセルが理解できているレベルにもよるが、研究に精通していない人でも使用したほうが良い。テクニックを教えてもらったが、そこが資料としてあればよかった。書いてるうちに時間が進んでしまった。大変身になる講義でもう少し教えてほしいと思った。
- ・統計が使いこなせないまま終わったので今後活かせる自信がない。もう少しゆっくり詳しくしてほしい。
- ・初めての内容で操作時間を使いすぎた感じがする。最後が聞きたかった。
- ・研究計画 90%といわれる意味が理解できた。

**表 9 第 3 回研修会の感想・意見など**

**記述回答(n=22/40)**

- ・意見交換，交流時間は短くていいので，パソコン操作などにもう少し時間があればいいなと思った。
- ・私語が目立つ（特定の人であるが）内容としては，今後にとっても活かせるものだった。
- ・具体的な方法について，もう少し聞きたい（時間をとってほしい）と思った。（研究のまとめ方の具体例も示してほしい）パソコンレベルを事前に一定にできるよう，事前課題を掲げてほしい。
- ・交流会の時間をできれば講義にしていきたい。（時間が足りない講義もあったため）
- ・パソコンの授業になると進むのが早くてついていけない。
- ・データの分析，グループワークの時間がもう少しあると，学びが深まったのではないかと思う。消化不良のところがあった。
- ・看護職の方ばかりが，講師やスタッフとしておられるから，いろいろな面で，気配りがあり，丁寧に対応してくださり，受講しやすかった。
- ・先生方が，親切で丁寧な方ばかりで，気負いせずに学べた。
- ・本日のカテゴリーわけの，解答例が欲しい。
- ・パソコンの作業が早くて，ついていけないことが多かった。どちらかというと来年度に役立つのかな・・・と思っている。
- ・基本的なことで，わかっていないことがたくさんあったので，再確認できてよかった。
- ・今回は，データ分析と発表の仕方についてでしたが，発表は知らないことばかりで，すごく勉強になった。相手が理解しやすいように工夫していくことの難しさも改めて感じた。
- ・講師の方が，伝えたいことが多すぎて，まとまってないので，言いたいことだけ伝えている印象。無理にグループワークをしても混乱してしまう。内容が多いのであれば，宿題や課題があった方が講義がスムーズにいくと思う。1ヵ月くらいあくので，予習もしたい。講師のパワーポイントや内容をテーマに沿っているのか疑問に思った。
- ・もらった資料とパワーポイントの表示が違うので，どちらを見ていいのかわからないので困った。エクセルの使い方を学ぶ必要があるのか疑問。これまで一度自分でできるとスムーズで良いかと思う。

- ・エクセルは、ここまでは理解しておこうなど、事前クリア課題を提示して頂けたら研修が有意義な時間になると思いました。
- ・全体的にその日のテーマの途中で終了している。活用できるところまでは、学べていないのではないかと。パソコン操作は、事前の課題を課した方がいいと思う。キャリアジャンプ講座を受講することになっているが、事前の3回の講義が、全員必要なのか、受講レベルの自己評価等で、受講できればよいと思う。SPSSの付き合い方を学びたいんです。
- ・パソコンの操作に対しては、人によって差があるので、事前課題があっても良かったと思う。もう少し演習をしっかりできた方が、勉強になったと思う。最後時間がなくて、わからないまま終わってしまった。多くの事を学び研究に活かしていきたいと思った。
- ・質的研究では、例などがあればもう少し学びが深められたかと思う。
- ・パソコン操作に時間をとるのは、多少問題があると感じる。エクセル等基本操作はいらぬのではないかと。ワークをもう少し行って欲しいかと感じている。パソコン操作は事前課題等でやっておくのもひとつかと思われる。
- ・パワーポイントで表を作る時の説明が少し早く感じた。（自分が苦手なせいもあるが）発表の資料の作り方など、授業する際に参考にしたい。
- ・本日の質的研究の材料のカテゴリー分類の分類例が欲しかった。パソコンはいつも困ったら、すぐ先生方が、かけつけてくださるので、とても助かった。
- ・学びやすい、環境を作ってください受講生のモチベーションがあがった。
- ・質的研究に関して、今すぐにでも始められる資料や方法を教えていただき、とても参考になった。またインタビューをしたあとの分析方法として、テープ起こしをした後コード化、カテゴリー化することで、概念を導き出せるという方法が理解できたので良かったと思う。パワーポイントについては、私が知らなかったこと、エクセルの方法など教えていただき良かった。すぐには完璧にできないと思うが徐々にできるように頑張りたいと思った。

各講座内の講義開始・終了時間、受講料、講座のタイムスケジュールについて、ほぼ全員が適切と回答しており、現在の内容や進行等に関しては問題ないとする。開催時期については数名が6月以前を希望しており、今後の検討事項としたい。受講生からは、パソコン操作やエクセルに個人差があるため、事前課題を希望されており、研修を受講するにあたり、事前準備が必要であると考えられた。

本講座は、地域の保健・医療・福祉の場において看護の質の向上を目指した目的を含めている。受講者のニーズや学習意欲を把握しながら今後の講座を運営し、聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターとして発展していきたいと考える。

## 2. キャリアジャンプ講座

### 2-1 キャリアジャンプ講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

講義テーマ	統計解析の基礎・演習	担当	種本 香
日時	平成 28 年 9 月 23 日（金） 10：00～11：30（統計解析の基礎） 12：30～14：00（統計解析の演習） 14：10～15：40（SPSS）	場所	第 3 コンピュータ室

#### 1) 講義の概要

看護研究に取り組む中で、Excel によるデータ処理・基礎統計に加え、さらに本格的に分析方法について学ぶことを目的とした講義である。

#### 2) 講義の到達目標

- ①統計解析の基礎を理解する
- ②SPSS の操作が理解し、操作できる

#### 3) 講義内容

1. 統計解析の基礎
  - 1) 統計、統計解析とは、確率と統計
  - 2) 統計データの整理法（度数分布、ヒストグラム）
  - 3) データの傾向・性質・特徴を知る（中央値、最頻値、代表値、分散、標準偏差）
  - 4) 仮説を立てる（統計学的仮説検定、帰無仮説、対立仮説）
  - 5) 変数（従属変数、独立変数）、量的データと質的データ
  - 6) 検定とは（帰無仮説、有意確立、p 値、有意水準、t 検定、 $\chi^2$  検定）
2. 統計解析の演習
3. SPSS を学ぼう
  - 1) SPSS の基本操作
  - 2) 変数ビュー、新しい変数を作る
  - 3) 記述統計、 $\chi^2$  検定、t 検定

#### 引用文献

- 石村貞夫：SPSS でやさしく学ぶアンケート処理 第 4 版，東京図書，2015。  
出村慎一：健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門，杏林書院，2007。  
及川 慶浩・山蔭道明：超入門らくらく使えるはじめての統計学，メディカ出版，2008。  
今野紀雄：図解雑学 統計，ナツメ社，1999。  
米川和夫：超初心者向け SPSS による統計解析マニュアル，北大路書房，2010。  
竹原貞真：SPSS のススメ 1，北大路書房，2013。  
石村貞夫：よくわかる統計学 看護医療データ編 第 2 版，東京図書，2015。

#### 【講師】種本 香（地域看護学）

専門は地域看護学で『保健師のキャリア形成』や『地域看護学演習・実習の教授方法』に関する研究に取り組んでいる。



## 2-2 キャリアジャンプ講座アンケート結果

キャリアジャンプ講座は、今年度で3回目となる。受講者の受講動機や受講後の自己評価を振り返り、講座の有用性と今後の講座内容等を検討することを目的にアンケート調査を実施した。アンケートは任意回答とした。

キャリアジャンプの受講者は16人で、アンケート回収数は16人(回収率100%、有効回答率83.3%)であった。

### 1) 基本属性 (表1)

年齢層は、前年度同様に40歳台が最も多く、所属部署において研究のリーダー的役割や指導する者、今後の研究の参考にする者が受講していた。

表1 キャリアジャンプ受講者の属性

n=16		
個人の属性	人数	割合 (%)
性別		
男性	1	6.3
女性	15	93.8
年齢		
20歳台	2	12.5
30歳台	4	25.0
40歳台	8	50.0
50歳台以上	2	12.5
職種		
看護師	13	81.3
保健師	2	12.5
助産師	0	0.0
介護職	0	0.0
その他	0	0.0
所属施設	人数	割合 (%)
病院	11	68.8
介護老人保健施設・老人ホー	1	6.3
訪問看護ステーション	0	0.0
保健所	2	12.5
その他	1	6.3

## 2) 講義内容・環境・設備について (図1, 2, 3)

講義内容の理解に関しては、約6~8割が理解したと回答した。講義資料に関しては、ほぼ全員が理解しやすかったと回答した。教室の環境については、ほぼ全員が適切であると回答していた。また、キャリアジャンプ講座においても、学部教員がサポートを行い、また担当講師のExcelやSPSSの習熟度に応じた資料準備によって、内容は理解しやすいものになったと考える。

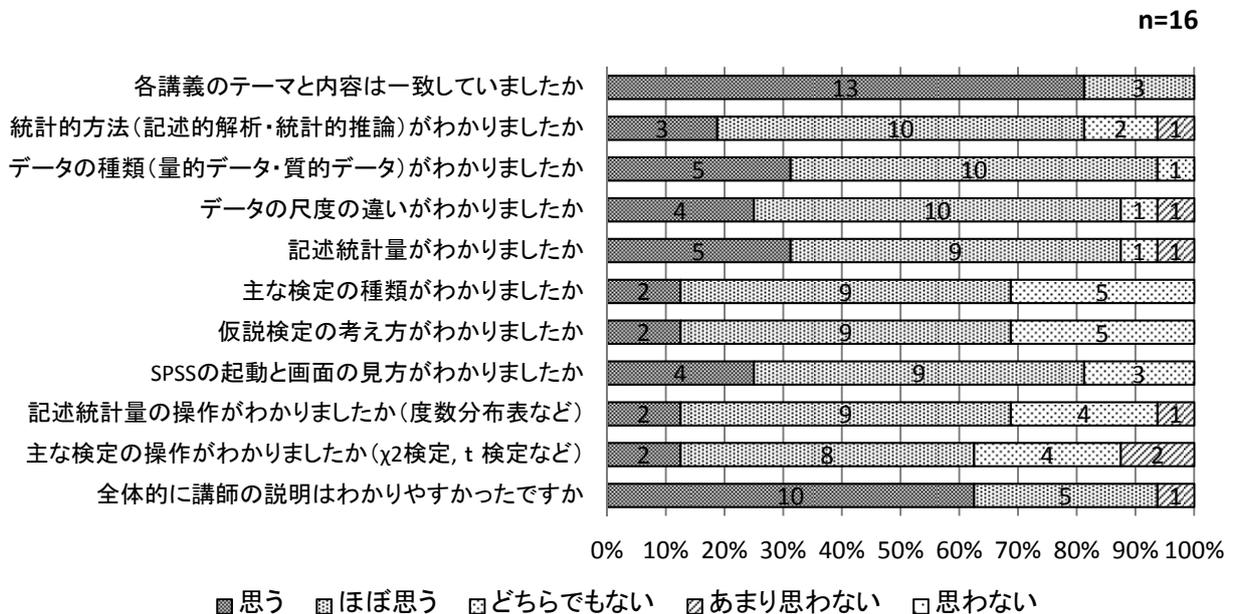


図1 講義内容

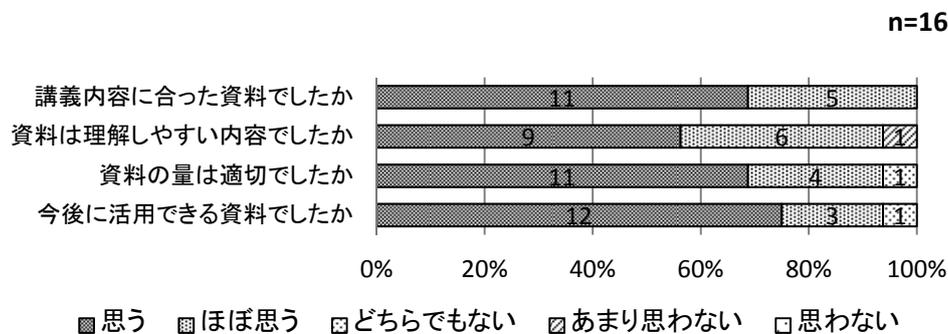


図2 講義資料

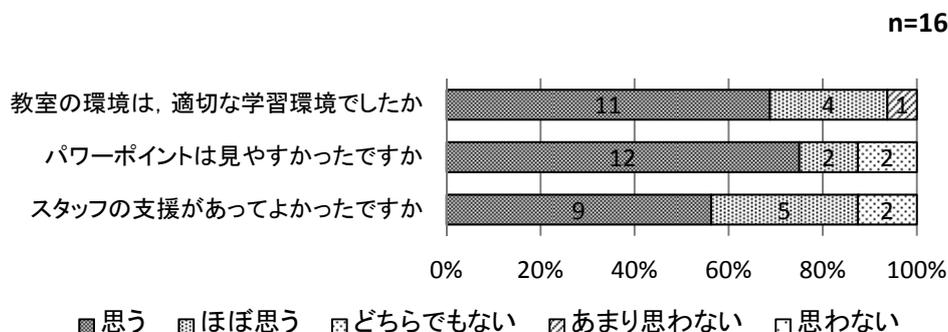


図3 環境・設備

### 3) 総合

指導的立場で調査・研究に関わっている受講生は約3割であった(図4)。また、学びたい内容であったと回答したのは約8割で、今後に役立つと回答したのは約9割で、前年度より増加していることから、参加者のニーズに応じた内容となってきたことを表している。さらに、ほぼ全員の受講生が本講座を満足したと回答していた。今後も、臨床において量的研究に取り組むうえで統計分析は必要であり、受講希望者は多いことが予測されるため、引き続き講座を継続していく必要がある。

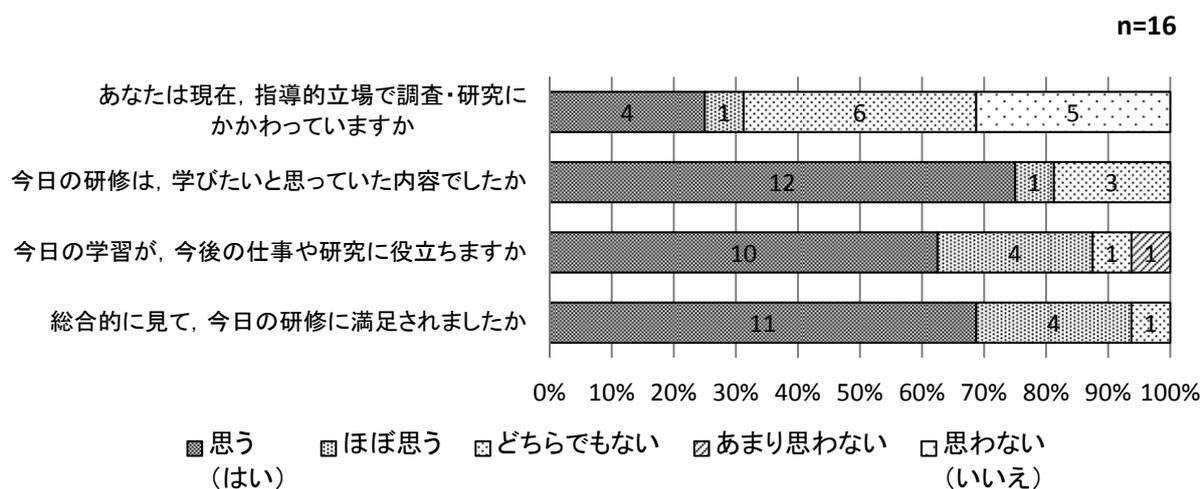


図4 総合

表2 受講理由

記述回答(n=12/16)

- ・研究を主体で行っており、今後研究を進めるにあたって統計解析は必要になるため上司の勧めであり参加。
- ・看護研究のメンバーで何度か看護協会の研修を受けたが、今回の内容のものはなく受けてみようと思った。上司のすすめもあった。
- ・上司のすすめで受講した。
- ・今年度看護研究をするにあたりキャリアアップ講座で学んできてより深めた知識を得たいと思い参加した。
- ・研究は発表のためだけでなく普段の業務でも必要な視点だと思い参加した。そしてまず自分に合った本を片手にPC操作をしようと思った。
- ・文献を読むにあたり統計の選択が適切なのかさえ分からない、処理されたデータの解釈が正しいのかもわからないという状態のため基本を学びたかった。
- ・研究の基礎を学んだことがなかったからしっかりと講師から学びたいと思ったから。
- ・統計に興味があり必要なのはわかっているが学ぶ機会がなかったため受講したいと思った。
- ・自分の今後の研究に生かすため。
- ・講義の一環として受講。
- ・大学院に進学し学びたいと思っていた研修に参加させてもらえることになった。
- ・統計が理解できないため、研究への活用のため。

表3 本講座を受講してみて、気づいた点・意見・感想

記述回答(n=10/16)

- ・統計や SPSS は教科書を読んでも理解できていないところが多かったが、今回の講義を聞いて少し理解でき興味も持てたような気がする。自分の研究を分析するためにも大切な内容だったのですごく意味のあり身になる講義だった。
- ・パソコン操作の内容も資料としてあったので振り返りしやすいと思った。用語の意味から教えてもらってわかりやすかった。
- ・とても分かりやすい講座でたいへんためになった。
- ・難しかったがとても勉強になった。
- ・統計学は理解できれば研究に使えると思う。しっかり学んで臨床の研究に生かしていきたい。
- ・統計だけは触れないと理解が難しいため、また学内の統計を外部受講したい気持ちだった。いつもニーズに合った研修を教育機関として提供していただきありがとうございました。また機会があれば学びにこれたらと思う。
- ・パソコンができず本日の講義に出席するのをためらっていたが、となりに先生についていただき教えていただくことで本日の講義内容を理解することができ、また機会があれば、学んでいきたい。
- ・ていねいに順を追って説明があったのはじめてでもわかりやすかった。
- ・学びやすい環境を作っておいてくださりありがとうございました。
- ・言葉の定義について理解できた。SPSS の活用を行っていきたい。検定のフローチャートを見て意味が理解できたと思われる。

### Ⅲ. 卒業生研修会

#### 1. 卒業生研修講義内容（シラバス・講義資料）及び 担当講師紹介

##### 1-1 卒後1年目研修

講義テーマ	急変時の対応～こんなときどうする～	担 当	國松 秀美
日 時	平成29年3月24日（木） 13：00～14：00（講義） 14：10～15：10（演習）	場 所	地域・在宅・精神看護学実習室 成人・老年看護学実習室

##### 1) 講義の概要

卒業生研修会が、看護実践力の育成に寄与し、卒業後の学習・相互交流の場となること。また、卒業研修会をきっかけに、学習意欲の向上につながり、卒業生自身が新たな行動指標を確立できるよう支援する。

##### 2) 講義の到達目標

- ①看護実践力を高めるための急変時の対する基礎的な知識や技術を身につけることができる
- ②臨床での急変時における疑問点を明確にし、それを対応するための方法がわかる
- ③学習意欲を向上することができる

##### 3) 講義内容

1. 急変に結びつく危険な徴候とは
2. アセスメントの方法
3. 意識障害、呼吸困難、胸痛急変のアセスメントと対応

##### 【講師】國松 秀美

専門は成人看護学で『救急看護・災害看護に関すること』に取り組んでいる。



## 1-2 卒後2年目研修

講義テーマ	臨床における看護研究とは	担当	木村 知子
日時	平成29年3月24日(木) 10:15~11:15	場所	地域・在宅・精神看護学実習室

### 1) 講義の概要

臨床における看護研究の意義について講義を行い、根拠に基づいた看護を提供するための知識の共有を図る。また、本研修による研究支援を継続し、研究計画書の作成から研究の成果を発表することを目指す。

### 2) 講義の到達目標

- ①卒業研究における学びを活かし、臨床看護研究に取り組める基礎的能力を習得する
- ②臨床での疑問点を明確にし、それを解決するための方法がわかる
- ③学習意欲を向上することができる

### 3) 講義内容

1. 臨床で行う看護研究とは？
2. 臨床で研究に取り組む意義
3. 看護研究に取り組む！さて、何から…？

#### 【講師】木村 知子 (学科長)

専門は母性看護学で『周産期の看護ケアに関すること』や『民間中小病院の看護管理に関すること』に取り組んでいる。



講義テーマ	文献クリティークの実際 文献クリティークの結果についてプレゼンテーション	担 当	平田 美紀
日 時	平成 29 年 3 月 24 日 (木) 12 : 30 ~ 14 : 00 14 : 10 ~ 15 : 10	場 所	第 3 コンピュータ室

### 1) 講義の概要

文献クリティークについて講義を行い、根拠に基づいた看護を提供するための知識の共有を図る。また、実際に行った文献クリティークの結果についてプレゼンテーションを行うことにより、研究方法や先行研究の成果を探求し活用することができる。

### 2) 講義の到達目標

- ①文献クリティークの視点が理解できる
- ②先行研究の研究方法や成果が理解できる
- ③根拠に基づいて看護研究の方法が理解できる

### 3) 講義内容

1. 文献クリティークとは
2. 文献クリティークの実際
3. 文献クリティークについての意見交換

#### 【講師】平田 美紀

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児に付き添う母親への支援』に取り組んでいる。



## IV. 聖泉大学ホームページへの掲載

### 1 キャリアアップ講座の掲載記事

大学のホームページに、キャリアアップ講座の活動報告を掲載した。

写真掲載については受講生より承諾を得た。

聖泉大学ホームページ「News & Topics 2016／看護学部」掲載記事より抜粋

#### ○第1回目 掲載記事

「平成28年度 キャリアアップ講座がはじまりました」2016年06月29日

看護キャリアアップ講座主催による「キャリアアップ講座が始まりました。本講座は、看護研究の基礎的知識、データ処理方法、学会発表の方法など身に付けるとともに、広く医療、福祉、教育の現場に携わる方の交流の場となることを目的としています。

第1回目の内容は、例年より開講している「看護研究の進め方」「文献検索の方法」「クリティークの方法」に加え、「研究計画書の書き方」「研究論理について」でした。具体的な内容を学ぶことで、受講者からは、「研究計画書をどのように書けばよいかわかった」「研究において、自分の弱い部分を改めて知ることができた」など前向きな声を聞かせていただきました。

今年度も本講座には、地域の様々な施設の方にご参加いただき、交流の場となっています。



キャリアアップ講座が始まりました



文献クリティークの演習の様子

#### ○第2回目 掲載記事

「第2回キャリアアップ講座を開催しました」2016年07月28日

看護キャリアアップセンター主催による第2回キャリアアップ講座を開催しました。

第2回目は、加納亜紀講師による「質問紙調査の方法について学ぼう」「Excelを活用したデータ処理について学ぼう」「基礎統計についてについて学ぼう」の講義・演習が行われました。演習にはキャリアアップ委員と教員12名がサポートさせていただきました。

受講者からは、「日頃、Excelを使用しても知らなかったことや改めてExcelの機能を学ぶ機会となりました」「これを機会に、勉強しないといけないと感じました」「これまで手計算でアンケートをまとめていましたが、今後はExcelを使用してまとめたいです」など、臨床におけるExcelの活用にむけたご意見をいただきました。また、現在、取り組まれている研究計画書や、より具体的な研究の進め方について相談も頂きました。



Excel を活用したデータ処理について学ぼう



意見交換会で様々なご意見を頂きました

### ○第3回目 掲載記事

「第3回キャリアアップ講座を開催しました」2016年08月19日

第3回目は、西垣里志講師による質的研究の「面接調査の方法について学ぼう」「分析方法について学ぼう」と、中島真由美講師による「学会発表の方法について学ぼう」の講義・演習が行われました。

質的研究の基礎知識や手法、面接調査における倫理的配慮についての講義と、データの分析について演習を行いました。受講者からは、「臨床では面接調査を行うには時間の限りがあるがじっくりデータを見るのもいいと思った」「質的研究の倫理的配慮が学べてよかった」「分析の演習がありイメージがついた」などの感想がありました。

学会発表では口演と示説について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの方法、ポスター作製についての講義と演習でした。受講者からは、「パワーポイントを使いながらの講義でわかりやすかった」「プレゼンテーションとして見やすい大きさなど詳細が学べた」などの感想がありました。

また、本講座で学んだ知識を忘れないうちに実践していきたいという意見もいただきました。



質的研究の講義の様子



データ分析の演習を行いました

## ○第4回目 掲載記事

「第4回キャリアアップ講座を開催し、講座が最終回を迎えました」2016年09月9日

看護キャリアアップセンター主催による第4回キャリアアップ講座を9月9日に開催しました。

6月から始まった講座は、キャリア「ホップ」「ステップ」「アップ」と段階を踏んで進められるように、月1回のペースで開催してきました。今回は「個別研究サポート」として、個別相談を希望される29名の受講生に、研究に関する疑問や悩みを解決するため看護学部の教員が支援しました。受講生の方からは、「少人数で対応していただいたので質問しやすかった」「行き詰っていたことが解決していけそうです」という声を聴かせていただきました。

最後に、4回全講座に参加された26名の受講生へ、キャリアアップセンター長より修了証書が授与され、今年度の講座も盛会に終えることができました。

なお、講座の詳細につきましては、『平成28年度看護キャリアアップセンター活動報告』に記載される予定です。



受講生へ修了証書の授与



受講生と委員との集合写真

## 2 キャリアジャンプ講座の掲載記事

大学のホームページに、キャリアジャンプ講座の活動報告を掲載した。

写真掲載については受講生より承諾を得た。

聖泉大学ホームページ「News & Topics 2016／看護学部」掲載記事より抜粋

### ○キャリアジャンプ講座 掲載記事

「看護キャリアアップセンター主催のキャリアジャンプ講座を開催しました」2016年9月23日

9月23日（金）、キャリアジャンプ講座を開催し、10名の受講生と本学大学院生6名が参加しました。講座では、種本香講師による「統計解析の基礎」についての講義、演習が行われました。

統計解析についての基礎知識についての講義、SPSSを使用した演習を行いました。

受講者からは「教科書だけでは理解できなかったが、講義を聞いて理解でき興味ももてた」、「用語の意味から説明があったので、はじめてでもわかりやすかった」などの感想をいただきました

また、「資料をみながら、振り返って学習していきたい」、「今後の研究に活かしていきたい」という意見もいただきました。



小山センター長よりご挨拶



SPSSの演習を行いました



受講生と委員との集合写真

# 資料

- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程
- ◆ 個人情報の使用に係る承諾について
- ◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について
- ◆ 共同研究のお誘い

## 資料

### 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学学則第3条の3に基づき、看護学部附属看護キャリアアップセンター（以下「センター」という。）の構成及び運営、その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、その目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(管理)

第4条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、センターを代表し、その事業及び管理運営の全般を統括する。
- 3 センター長は、学部長の推薦により学長が任命する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、前任者の任期途中で就任した場合は、その残任期間とする。
- 5 センターには、必要に応じて客員研究員を置くことができる。

(委員会)

第5条 センターに、委員会を置く。

- 2 センターは、次に掲げる者をもって組織する。
  - (1) センター長（委員長）1名
  - (2) 学部教員 若干名
  - (3) その他、学部長が必要と認めた者
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、その残任期間とする。
- 4 委員会は、次の事項について審議する。
  - (1) センターの運営に関する事項
  - (2) センターの事業に関する事項
  - (3) センターの予算に関する事項
  - (4) センターの研究活動に関する事項
  - (5) その他、センターの目的を達成するために必要な事項

5 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(センターの会計)

第6条 センターの会計は、本大学からの支出金および学外からの会費収入、援助金等により賄う。

(起案手続)

第7条 センターの行う事業その他重要な事項は、教授会に提案し、報告しなければならない。

(事務)

第8条 センターの事務は、事務部長が指名する所轄部署において行う。

(規程の改廃等)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

付則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

資料

平成 年 月 日

キャリアアップ講座  
受講者様

聖泉大学看護学部  
附属看護キャリアアップセンター長  
小山 敦 代

### 個人情報の使用に係る承諾について

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的にキャリアアップ講座（看護研究）を開講しております。その活動・成果は、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書を通じて、滋賀県の病院等の関係施設に発信しております。

つきましては、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容につきまして、使用のご承諾をいただきますよう、お願いいたします。

### 記

1. 講座終了後のアンケート調査（無記名）につきましては、回収をもって同意を得たとさせていただきますが、今後活かすためにご協力ください。
2. 講座風景写真等の使用については、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書に関するものみに使用します。
3. 写真撮影時に除外の場合は申し出ください。また、ホームページを通じて掲載された肖像等について、削除依頼があった場合は速やかに削除します。

---

### 個人情報の使用に係る承諾書

キャリアアップ講座（看護研究）風景の写真等、聖泉大学看護キャリアアップセンター活動の広報目的で使用されることを承諾します。

平成 年 月 日

聖泉大学看護キャリアアップセンター長 様

氏 名 \_\_\_\_\_

## 資料

# キャリアアップ講座受講者 情報システム利用について

1. 利用資格：キャリアアップ講座受講生（聖泉大学情報センター規程第4・5条）
2. 利用期間：講座申込年度開講初日～当該年度末
3. ユーザー登録とID・パスワードの提供
  - 1) ユーザー登録は、本人が所定の用紙に必要事項を記入し申請する。
  - 2) 情報センターから申請者に対しID・パスワードを発行する。
  - 3) 個人のID・パスワードは、第2回講座からパソコンのログインに使用する。
4. 情報センター利用手続き
  - 1) 情報センター事務室にある「コンピュータ室利用申込」用紙に必要事項を記入する。
  - 2) 受講証明書を情報センターに預ける。それと引き換えに、許可証を受け取る。  
(受講証明書を所持しない場合は、原則利用は認められない。)
  - 3) 許可証に記載された番号のコンピュータを使用する。
  - 4) 利用終了後、情報センター事務室において1)で記入した用紙に終了時刻を記入する。
  - 5) 許可証と引き換えに受講証明書を返却してもらう。
5. 情報センターコンピューター室の利用
  - 1) 第1コンピュータ室のみ利用を許可する。
  - 2) 開館日程は提示される。
  - 3) 利用できない日
    - a) 土日祝日
    - b) 学部定期試験前1週間前から学部定期試験期間中
    - c) 水曜日 12:00-14:30（利用状況によって、変更される可能性あり）
    - d) システムメンテナンス実施期間中（夏期休暇期間中を予定）

\*なお情報センターの開館日程については、キャリアアップ講座開講時および看護キャリアアップセンターホームページに情報提供する。
  - 4) 利用目的は、文献検索ならびに関連作業のみとする。
  - 5) Webは閲覧可能であるが、一部のページ、動画サイトは、コンテンツフィルターによる制限がかかるため閲覧ができない。
  - 6) メール利用はできない。
  - 7) 取得情報の保存に当たっては、個人で保存すること。
6. 使用検索システム  
医学中央雑誌、シナールについて利用可能であるが、利用数に制限がある。
7. プリンター利用について
  - 1) ポイント購入制   20ポイント：A4白黒印刷20枚＝100円  
                          100ポイント：A4白黒印刷100枚＝400円

以上

## 共同研究のお誘い

### ■共同研究をしませんか

看護キャリアアップセンターでは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的として、地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究を積極的に行っております。

共同研究の実施形態として、本学教員と共同または分担して研究するほか、医療施設での研究の指導・サポートも可能です。

### ■共同研究のすすめかた

- ・研究テーマは決まっているが、適当な教員がわからない場合

お問い合わせください。担当者がサポートいたします。

- ・共同研究をしたい教員が決まっている場合

当該教員におつなぎいたします。研究内容・期間・研究計画等をお知らせください。

### ■本学教員研究内容紹介

自分のしたい研究テーマを推進する教員が不在の場合でも一度ご相談ください。可能な限り対応させていただきます。

### ■お申込み

下記連絡先へお問い合わせください。

### ■受け入れについて

申込みいただいた内容を確認しまして、共同研究の受け入れを決定いたします。

### ■その他

共同研究を行う拠点として本学併設の研究施設（図書館・情報センターほか）などがご利用いただけます（研究推進目的に限る）。

### ■申込み及び問い合わせ先

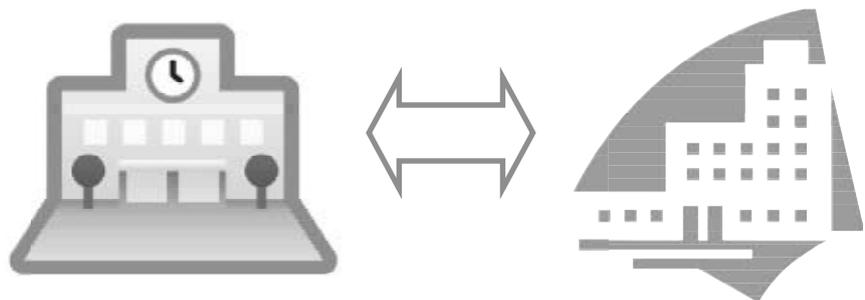
〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

聖泉大学 看護学部附属 看護キャリアアップセンター

Tel : 0749-47-8400 (代表)

Fax : 0749-43-2411

E-mail : kango-career@seisen.ac.jp



## あとがき

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011（平成23）年、看護学部開設と同時に設置され6年が経過しました。

当センターの大きな事業は、看護の質の向上を目指し、**看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】**であります。

看護研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談までを<ホップ><ステップ><アップ><サポート>として、4回（4日間）開講し、全て受講した方に修了証を交付しております。2011（平成23）～2016（平成28）年度の6年間で修了者は121名に達しました。加えて2014（平成26）年度からは特別講座<ジャンプ>として、統計解析を中心としたレベルアップ講座を開講し3年間で33名の受講生がありました。

このように滋賀県内の多くの看護職等の方々が<キャリアアップ講座>を受講していただきましたことに感謝申しあげ、当センターが教育・研究の相互交流の場としての役割を担い、充実・発展してきておりますことを大変嬉しく思っております。

次は、修了生の方達が臨床看護の場においてどのような形で活かされているか、その成果とニーズを把握し、当センター事業に反映していくことを課題として、「キャリアアップ講座修了者における看護研究活動の実態調査」を実施しましたので、滋賀県看護学会等で報告させていただく予定にしております。調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

また、本看護学部は、第3期生まで卒業生の85%以上が滋賀県内に就職という、まさに地域で育てられ地域に貢献する看護職者育成の学部であり、卒業生の今後の成長・活躍を期待するところです。

そこで、当センター事業の一環である**【卒業生研修会】**を3月に、**卒後1年目研修「こんなときどうする？急変対応」**、**卒後2年目研修「臨床看護研究ことはじめ」**のテーマで開催いたします。

また、平成27（2015）年に開設の大学院看護学研究科と別科助産専攻におきましては、時代のニーズに対応できる人材育成を目指して改革と発展の道を歩んでおり、この3月には、大学院第1期の修了生、別科助産専攻第2期の卒業生を輩出することができました。これもひとえに地域の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げ、修了生・卒業生の活躍に期待するところです。

当センターにおきましても常に将来を見据えて、目的に向けた役割が果たしていけますよう、皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

# 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター活動報告

平成 28 年度

Vol.5

---

発行日

2017 年 3 月 30 日

発行者

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター委員会

委員長	小山	敦代
副委員長	平田	美紀
	中川	ひろみ
	川嶋	元子
	千田	美紀子
	森本	恵り子

発行所

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

TEL. 0749-47-8400

印刷所

ひがし印刷